

I. 平成27年度事業報告

1. 会勢報告

{総務担当：堀江 良典、本多 薫}

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成27年4月1日	平成28年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,526	1,493	61	94

会員資格

変更

正会員:	1,445	1,401	38	82	-44	0
準会員:	81	92	23	12	+11	0

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成27年4月1日	平成28年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 (): 支部間 の移動
北 海 道	36	33	0	2	-2(-1)
東 北	60	55	0	4	-4(-1)
関 東	836	820	29	45	-16(0)
東 海	127	126	10	12	-2(+1)
関 西	261	255	12	17	-5(-1)
中国・四国	114	115	6	6	0(+1)
九州・沖縄	82	80	4	7	-3(+1)
国 外	10	9	0	1	-1(0)
賛 助 会 員	30社31口	29社30口	4社4口	5社5口	-1社-1口

2. 事業報告

{総務担当：堀江 良典、本多 薫}

平成27年度は、一般社団法人日本人間工学会第4期（平成26年6月～28年6月）の2年目として、前年度に引き続き活動を集約発展させた。ニュースレター（月1回程度）の配信、査読期間短縮のための電子査読管理システムの改修など会員向けサービスの充実を図った。役員選出に関する検討委員会により学会活動活性化のために提案された選挙制度の下、選挙管理委員会ならびに役員候補者推薦委員会を設置し、第5期代議員および役員選挙を実施した。

- (1) 平成27年定時社員総会を平成27年6月13日に芝浦工業大学芝浦キャンパスにおいて開催し、平成26年度事業報告・収支決算、平成27年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 第56回大会を吉武良治大会長のもと平成27年6月13日（土）～14日（日）に芝浦工業大学芝浦キャンパスで、「人間工学とデザイン」の主題のもと開催し、学会／大会共同企画シンポジウム「異セクター連携型デザイン開発と人間工学グッドプラクティス」、公開講座「人の暮らしを豊かにするデザイン！」を企画した。また、第57回大会を齋藤 真大会長のもと平成28年6月25日～26日に三重県立看護大学にて開催することを決定した。
- (3) 公開講座として1件、部会公開講座として2件開催した。
- (4) 機関誌「人間工学」の第51巻2～6号及び第52巻1号の計6冊を発行した。
- (5) 理事会を平成27年5月7日、6月12日、9月17日、平成28年1月12日の計4回開催した。
- (6) 平成27年度功労賞（2名）、論文賞（1件）、研究奨励賞（2件）、グッドプラクティス最優秀賞（1件）・特別賞（1件）、優秀研究発表奨励賞（4件）の表彰を行った。受賞者一覧は「人間工学」Vol. 51, No. 5参照。
- (7) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験（A方式試験）合格者11名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験（B方式試験）合格者4名、準専門家合格者7名、アシスタント合格者1名を新たに得た。その結果、平成27年度末現在の認定人間工学専門家は198名、準専門家96名、アシスタント16名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナーを開催し、会報を4回発行した。
- (8) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

8-1) 広報委員会

理事会、支部、委員会、研究部会、専門家機構などと連携・協力のもと、ホームページ、ニュースレターを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。

8-2) 編集委員会

学会誌の定期発行と内容の充実、編集委員会の開催、委員会HPの更新、投稿規程改定、電子査読管理システムの正式運用開始と改修などを実施した。なお、本年度は49編（原著29編、総説17編、短報3編、資料3編）を受け付けた。採否が判定した投稿論文は57編（通常投稿34編、QR制度投稿論文3編、50周年記念寄稿20編）であり、通常投稿の採択率は55.9%、QR制度投稿論文は66.7%であった。

8-3) 国際協力委員会

ACED第2回大会（2017年予定）にむけて、準備委員会の開催（@大阪、2016.2.25）、および第1回実行委員会の開催（@慶応大学、2016.5.6）。IEA評議会：メルボルン：2015.8.8～9 小谷委員長、鳥居塚副委員長、鈴木委員ならびに藤田IEA会長が出席。

8-4) ISO/TC159国内対策委員会

FDIS、DIS等の規格原案に関する計37件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し（全体会議3回、分科会28回）審議を行った。また、国際会議出席（24回、のべ73名出席）などによって3件の新ISO規格の発行に寄与した。

8-5) 表彰委員会

平成27年度功労賞、日本人間工学会論文賞、研究奨励賞、人間工学グッドプラクティス賞、優秀研究発表奨励賞の授与式を行った。平成28年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。また各表彰制度を整理した表彰制度規程を制定するとともに、各賞選考規程類の見直しを行った。

8-6) 安全人間工学委員会

社会への情報発信、他学会とのリエゾン、安全工学シンポジウム2016の幹事学会として開催の準備を進めている。また、安全人間工学研究部会が主催・共催するシンポジウム・研究会の企画・立案・実施をサポートした。

8-7) 学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

8-8) 企画担当

研究部会との共催により公開講座として、衣服人間工学部会と「サステナブルなものづくり」を10月17日に、ビッグデータ人間工学研究部会と「データの可視化」を12月6日に開催した。

8-9) 子どものICT活用委員会

子どものICT機器活用に関する人間工学課題を検討するため、各種情報を交換するとともに、ガイドラインの考え方等を整理してきた。これらの活動成果を学会として共有するため2016年6月に開催される日本人間工学会第57回大会に本委員会としてシンポジウムを企画した。

8-10) IEA担当

IEA 財務担当副会長として財務、常任役員会議（EC 会議）および評議会会議ならびに IEA ウェブサイトの運営業務を遂行した。8月に開催された Council 会議で藤田祐志が IEA 会長に選出され以後、会長として、EC の編成、事業計画の立案ほかに従事した。

8-11) 役員選出に関する検討委員会

電子投票 WG を設置し電子投票の仕様について検討を重ねた。本委員会答申に沿った日程、方法で第5期選挙管理委員会により役員選挙が実施された。なお、第5期役員選挙終了により本委員会は終了し、電子投票 WG は必要に応じて総務担当の下で活動を継続する。

8-12) 第56回大会担当

第56回大会（吉武良治大会長・芝浦工業大学）を6月13日（土）～14日（日）に芝浦工業大学芝浦キャンパス（東京都港区芝浦）にて開催し、大会テーマを「人間工学とデザイン」と設定し、テーマに関連した特別講演や大会企画を中心に日韓合同シンポジウム、公開講座、一般企画シンポジウム、一般発表（142件）、機器展示、懇親会等を行い約600名の参加者を得て盛会であった。

(9) 支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、システム大会部会の計12研究部会が、多彩な活動を行った。

(10) 関連学術団体等と、60件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(11) 学会事務局では、JENC 事務局業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。また、学会誌や大会講演集の J-STAGE への公開を進め、学会 HP および JES ニュースレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

3. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

3-1. 広報委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：松田 文子}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会、認定機構などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努めた。重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベント案内等をHPにて迅速に情報発信を行った。
- (2) 人間工学の総合データベース (ERGO Directory) およびグッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努めた。
- (3) 表彰委員会・人間工学専門家認定機構と連携し、「専門家 100 名が選んだ人間工学 GP 賞」を活用した情報発信を行った。
- (4) HP スペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営 (取材・記事制作・HP 掲載) を行った。
- (5) 学会事務局と連携し、学会員へ JES ニュースレターを e-mail 配信した (原則月 1 回)。
- (6) 編集委員会と連携を図り、電子査読システムの運用を技術面から支援した。
- (7) 国内外からの広報関連の問い合わせ対応 (e-mail) を行った。近年急激に増えている問い合わせに対応するため、問い合わせ対応フローを総務・国際協力委員会・人間工学専門家認定機構と連携し整備した。
- (8) 50 周年記念企画への対応要請を受け、「人間工学博物館 (バーチャルミュージアム)」構想を学生企画として展開した。
- (9) 学会シンボルマーク・ロゴ規定を整備した (2016 年 1 月策定)

3-2. 編集委員会

{委員長：大須賀 美恵子、副委員長：榎原 毅}

(1) 会誌「人間工学」の編集・発行

- 1) 平成27年04月：第51巻2号 (pp. 79-156) : 総説2編, 原著5編 短報2編, 他
- 2) 平成27年06月：第51巻3号 (pp. 157-216) : 総説5編, 原著1編 他
- 3) 平成27年08月：第51巻4号 (pp. 217-292) : 総説3編, 原著3編 他
- 4) 平成27年10月：第51巻5号 (pp. 293-382) : 総説3編, 原著5編 他
- 5) 平成27年12月：第51巻6号 (pp. 383-464) : 総説5編, 原著2編, 資料2編 他
- 6) 平成28年02月：第52巻1号 (pp. 1-70) : 総説3編, 原著4編 他

(2) 学会設立50周年記念企画

学会設立50周年の節目にあたり、座談会、業界・分野別人間工学の紹介、人間工学国際規格の紹介を企画し、第50巻1号より掲載を開始した。その他、人間工学方法論 (測定法) の解説や他委員会、部会との連携企画の準備を進め、計23編の総説原稿を掲載した (第52巻1号にて掲載完了)。

(3) クイック・レビュー(QR)制度

論文投稿の推進と投稿者の利便性を高めるため、大会と連動したクイック・レビュー制度を実践し、一定の成果を得た。QR制度の仮登録者は21名、本登録者は7名、論文投稿者は3名 (採択2件、不採択1件) であった。

(4) 投稿規程の改定

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (厚生労働省・文部科学省)」の施行 (2016年4月) に伴い、投稿規程の改定を行った (2015年6月12日版)。

(5) 電子査読管理システムの正式運用開始と改修

電子査読管理システムを構築し、2015年12月より正式運用を開始した。投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、システムの改修を行った。

(7) 編集委員会

対面委員会とメーリングリストによる電子編集委員会を隔月ごとに計12回開催した。対面委員会のうち3回は全体会議（5月東京、7月名古屋、3月東京）、3回は複数拠点を結んだweb会議（9月大阪・東京、11月大阪・東京、1月大阪・東京）とした。いずれも、個人単位のweb参加も可能とし、委員の利便性向上と委員会の活性化に寄与した。

(8) 投稿論文数・採択率・査読期間

前年度に引き続き、採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。

平成27年度に受け付けた投稿論文は、通常投稿が29編（原著23編、短報3編、資料3編）、50周年記念寄稿原稿が17編（総説17編）、QR制度投稿論文が3編（原著3編）であり、総数は49編（原著26編、総説17編、短報3編、資料3編）であった。平成27年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が34編（採択19編、不採択15編、採択率55.9%）、通常投稿の取下げが3編、50周年記念寄稿原稿が20編（採択20編、採択率=100%）、QR制度投稿論文が3編（採択2編、不採択1編、採択率66.7%）であり、全体では57編（採択41編、不採択16編、採択率71.9%）であった。平成27年度中に決定した査読者の延べ人数は136名（うち非会員者18名）であった。また、平成27年度に判定が確定した論文の平均査読期間（全投稿区分の投稿受付日から最終判定日までの日数）は、通常投稿が134.7日（採択164.0日、不採択97.6日）、50周年記念寄稿原稿が52.4日、QR制度投稿論文が59.5日であり、全体では105.0日であった（QRから通常投稿へ切り替えた論文1編の査読日数は平均査読期間の集計から除外した）。

(9) その他、編集委員会所掌業務に対応した。

3-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

(1) 委員会開催

委員会全体会合を開催（2016.3.23）。その他E-mailによる緊密な連絡を実施

(2) 理事会審議・報告

ACED2017準備状況、日本からのオフィサー選出について、IEA関連の国際表彰について、IEA Future of Ergonomics タスクフォースの構築についての審議など

(3) 国際交流

- ・第17回日韓共同シンポジウム開催、芝浦工業大学：平成27年6月13日～14日、日本7件、韓国25件、計32件発表
- ・ACED第2回大会（2017年予定）準備活動に関して、準備委員会の開催（@大阪、2016.2.25）、および第1回実行委員会の開催（@慶応大学、2016.5.6）
- ・IEA評議会：メルボルン：2015.8.8～9
小谷委員長、鳥居塚副委員長、鈴木委員ならびに藤田IEA会長が出席し、IEA2018大会（イタリア、フィレンツェ）の準備状況報告、役員選挙、法人登録、IEA Awards関連の議論（新しい表彰項目、Liberty Mutual Medalの受賞者など）、新しい参加国の報告などが行われた。
- ・日韓共同シンポジウム（済州島、2016.6.2～4）の準備対応
- ・ACED Council meetingの開催準備（済州島、2016.6.2）
- ・国際表彰対応（提出資料の準備、表彰委員会との連携、IEA Award Committeeとの事務対応、小木和孝氏、長町三生氏IEAでの受賞に際して広報記事の作成など）
- ・AAEC（オランダ、米国）開催に向けてJESとのアグリーメント作成（2015.11.11）
- ・米国HFESとの相互プロモーション対応、両国の大会についての広報実施（2015.6.21）
- ・オーストラリア人間工学会からの情報提供対応（2015.6.21）
- ・SELFから発信されたテロ関連の情報についての連絡対応（2015.11.16）
- ・ブラジルABERGOとの協力活動、イイダイチロウ氏の功績に関して表彰対応（表彰委員会と共同対応、2016.3.3）および相互研究協力体制の推進
- ・その他各国からの発信情報に対する対応（元IEA会長杉山氏の逝去に対する各国への連絡対応、熊本地震に対する

各国からの連絡への対応など)

・IEAニューズレターのJESウェブサイトへの公開 (随時)

(4) 国際活動関連記事

第51巻4号 Remembering our great mentor and good friend: Late Professor Sadao Sugiyama, (Eric Min-yang Wang)

第51巻5号 IEA2015参加報告(大倉典子, 佐藤稔久, 稲葉健太郎)

第51巻5号 PIE(Psychophysiology in Ergonomics)2015報告(高橋雄三, 三宅晋司)

第51巻5号 2015年度IEA評議会参加報告(鳥居塚崇, 小谷賢太郎, 鈴木桂輔)

第51巻6号 AAATE2015参加報告(細野直恒, 赤津裕子)

3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長: 横井 孝志、副委員長: 佐藤 洋}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

- ・国内委員会: 全体会議3回、分科会28回(メール審議含む)
- ・国際会議出席状況: 24回の国際会議に延べ73名出席

(2) 発行規格、投票

〈新ISO規格〉: 3件

- ・ISO 9241-392: 2015 Ergonomics of human-system interaction – Part 392: Ergonomic recommendations for the reduction of visual fatigue from stereoscopic images
- ・ISO 20685-2: 2015 Ergonomics – 3-D scanning methodologies for internationally compatible anthropometric databases – Part 2: Evaluation protocol of surface shape and repeatability of relative landmark positions
- ・ISO 7250-3: 2015 Basic human body measurements for technological design – Part 3: Worldwide and regional design ranges for use in product standards

〈投票〉: CIB: 12件、NP: 4件、CD: 2件、DIS: 5件、FDIS: 4件、SR: 10件

(3) 分科会活動(メール審議含む)

- | | | |
|------------------------------|----------|----------|
| ・SC1(人間工学の一般原則)&WG | 主査: 青木和夫 | 分科会4回開催 |
| ・SC3(人体寸法と生体力学)&WG | 主査: 榎原毅 | 分科会4回開催 |
| ・SC4(人間とシステムのインタラクション)&WG&SG | 主査: 横井孝志 | 分科会10回開催 |
| ・SC5(物理的環境の人間工学)&WG&SG | 主査: 澤田晋一 | 分科会5回開催 |
| ・アクセシブルデザイン関連会議 | 主査: 青木和夫 | 分科会5回開催 |

3-5. 表彰委員会

{委員長: 斉藤 進、副委員長: 大内 啓子}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行った。
- (2) 表彰委員会のウェブサイトを作成し、各賞の選考規程及び歴代の各賞受賞者を広く公開した。
- (3) 本学会の表彰制度を整理した表彰制度規程を制定するとともに、各賞選考規程類の見直しを行った。
- (4) 功労賞、論文賞、研究奨励賞、人間工学GP賞の選考を行い、平成27年定時社員総会において各賞受賞者に対する授与式を行った。また、第56回大会における優秀研究発表奨励賞の選考と賞状の授与を行った。
- (5) 平成28年度の各賞受賞候補を選考するとともに、表彰の準備を行った。
- (6) 国際協力委員会及び広報委員会と連携し、
 - 1) IEA国際表彰制度と候補者について、ホームページにより公募するとともに情報等を会員と共有した。
 - 2) ブラジルにおいて人間工学の父と称されているイイダ イチロウ博士について、日伯人間工学交流の証として日

本人間工学会が表彰する手続きを進めた。藤田祐志国際人間工学連合会長が、2016年5月末に開催されるブラジル人間工学会においてイイダ イチロウ博士の表彰を行う。

(7)その他、表彰委員会所掌業務への迅速な対応に努めた。

3-6. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1)前年度に引き続き、青木（日大）・小松原（早大）・佐相（電力中央研究所）・首藤（社会安全研究所）・中西（慶應義塾大）・芳賀（立教大）・酒井（労働科学研究所）の7人の委員で活動した。
- (2)日本原子力学会社会・環境部会ほかとともに第16回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ「一事故調査の社会的役割と進め方」を主催した。（平成27年12月25日（金）日本科学技術連盟東高円寺ビル2階講堂）
- (3)日本学術会議安全工学シンポジウム2016の運営委員に佐相委員と鳥居塚安全人間工学研究部会長が就任し幹事学会として開催の準備を進めている。
- (4)安全工学会外部有識者アドバイザーボードに芳賀委員長が出席している。
- (5)安全人間工学研究部会による3回の研究会の企画に助言等を行った。

3-7. 学術担当

{担当：横山 清子、青木 和夫}

学術担当として、日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。

- (1)第6回横幹連合カンファレンス名古屋へのプログラム委員としての参加（横山理事）
- (2)横幹連合への理事の推薦（推薦者なし）

3-8. 企画担当

{担当：徳田 哲男}

- (1)研究部会との共催により、公開講座を実施した。
 - ①衣服人間工学部会
開催日：2015年10月17日、場所：文化学園大学、テーマ：サステナブルなものづくり
 - ②ビッグデータ人間工学研究部会
開催日：2015年12月6日、場所：大阪府立大学 I-site なんば、テーマ：データの可視化

3-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：吉武 良治 副機構長：福住 伸一}

- (1)会員状況（2016年3月31日現在）
 - 人間工学専門家 198名（H27年度 資格取得者15名、退会者4名）
 - 人間工学準専門家 96名（H27年度 資格取得者7名、退会者4名[内3名は専門家へ登録]）
 - 人間工学アシスタント 16名（H27年度 資格取得者1名）
- (2)資格認定試験実施状況
資格認定試験（A方式試験）を1回実施、受験13名、合格11名であった。また、筆記試験免除条項の適用（B方式試験）を1回実施、受験4名、合格4名。準専門家に応募7名、書類審査に7名が合格。アシスタントに応募1名、書類審査に1名が合格。

(3) 定期総会・講演会の開催

講演会 日時：2015年4月24日(金) 13:30～15:45

講演1：出浦淑枝(株式会社小松製作所)

「建設機械における国際標準化活動ー人間工学専門家の役割」

講演2：有岡哲也(テルモ株式会社)

「テルモにおける医療機器ユーザビリティ向上の取組み」

総会 日時：2015年4月24日(金) 16:00～17:00(総会后、交流会を開催)

出席者：20名、委任状：53名

(4) 幹事会の開催

第35回 日時：2016年3月29日(火) 16:00～18:00 場所：芝浦工業大学 芝浦キャンパス

(5) 再認定の実施

人間工学専門家19名、人間工学準専門家9名の再認定手続きが完了した。

(6) 国際人間工学連合(IEA)における専門家シンポジウム開催

2015年8月11日：オーストラリア メルボルン

(7) シンポジウムの開催

下記大会にて認定機構にてシンポジウムを主催した。

日本人間工学会第56回大会(2015/6/14、東京)「将来に向けて人間工学は何をすべきか？」

日本人間工学会関東支部第45回大会(2015/12/13、埼玉)「CPEの活動紹介 2015winter」

(8) CPE サロン(交流会)「自動車業界での人間工学の活用～フリートーク～」の開催

日時：2015年11月28日(土) 15:00-18:00

会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス3階301

(9) CPE セミナーの開催

日時：2016年2月5日(金) 15:00-17:00

会場：公益財団法人共用品推進機構

(10) 会報作成

会報を4回発行した。

(11) 人間工学グッドプラクティス(GP)賞

表彰委員会と協力し、認定人間工学専門家による一次審査を実施し、6月の大会にて第四回の表彰を行った。

(12) 試験ワーキンググループ(WG)活動

試験ガイドブックの見直し、作成のためのWGを発足、活動し、試験ガイドブック案を作成した。

会議開催：2015/4/24, 5/7, 6/14, 9/5, 2016/1/20

(13) 人材DB

広報委員会と協力し、人材DBを構築し、運用をスタートした。

[臨時委員会・担当]

3-10. 子どものICT活用委員会

{委員長:齊藤 進、副委員長:久武 雄三}

わが国では、2010年に閣議決定された新成長戦略に沿い、総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」等、小中学校におけるICT機器の導入と活用が急速に進められてきた。しかし、学校では、子どものICT機器活用についての人間工学的視点はないままに、児童や生徒一人一台の情報端末や教室への電子黒板等が導入されている現状である。

日本人間工学会では、子どものICT機器活用に関する人間工学課題を検討するため、子どものICT活用委員会を設置し、各種情報を交換するとともに、ガイドラインの考え方等を整理してきた。これらの活動成果を学会と

して共有するためにも、2016年6月に開催される日本人間工学会第57回大会に本委員会として下記シンポジウムを企画することにした。

シンポジウム題名「子どものICT活用の現状とガイドラインの検討」

- ・ 齊藤進委員長「子どものICT活用の現状とガイドラインの検討ー人間工学ガイドラインの考え方ー」
- ・ 岡田衛委員「ノートパソコン・タブレットパソコン開発のための小中学校ICT教育現場を対象とした観察事例」
- ・ 久武雄三副委員長「ICT端末のための電子ディスプレイの要件と実現のための取り組み」
- ・ 宮本雅之委員「大型タッチパネル技術の進展」
- ・ 柴田隆史委員「子どものICT活用人間工学ガイドラインの概要」

3-11. IEA 担当

{担当: 藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 財務担当副会長として財務、常任役員会議 (EC 会議) および評議会会議 (Council 会議) の運営、会員の要望への対応、IEA の運営方針立案ほかに従事した。
- (2) 平成 27 年 8 月に開催された Council 会議で藤田祐志が IEA 会長に選出された。以後、会長として、EC の編成、事業計画の立案ほかに従事した。
- (3) IEA ウェブサイトの運營業務に従事した (主に河合隆史が担当)。

3-12. 役員選出に関する検討委員会

{委員長: 酒井 一博、副委員長: 堀江 良典}

- (1) 本委員会の答申に従い、電子投票 WG を設置した。WG のメンバーは、本委員会、第 5 期選挙管理委員会、広報委員会から選定した。
- (2) 第 1 回電子投票 WG を開催 (2015 年 7 月 7 日)、以降、メール会議にて電子投票の仕様について検討を重ねた。
- (3) 本委員会の答申について 2015 年 12 月 30 日に修正を検討し、2016 年 1 月 6 日及び 8 日にメール会議を実施した。

上記を踏まえ、本委員会答申に沿った日程、方法で第 5 期選挙管理委員会により役員選挙が実施された。なお、第 5 期役員選挙終了により本委員会は終了し、電子投票 WG は必要に応じて総務担当の下で活動を継続する。

3-13. 第 5 期選挙管理委員会

{担当: 吉武 良治}

(1) 委員会等日程

第 5 期 (平成 28 年社員総会~30 年社員総会) の代議員および役員選挙を以下の日程で実施した。

- ・ 平成 27 年 10 月 3 日 (土) 第 1 回委員会 (通信委員会)
選挙規程確認、選挙人名簿および代議員定員数を確認、選挙日程の確認
- ・ 平成 27 年 10 月 10 日 (土) 第 2 回委員会
代議員選挙投票用紙の発送
- ・ 平成 27 年 11 月 24 日 (土) 第 3 回委員会
代議員選挙の開票、代議員当選者へ就任諾否確認書の発送
- ・ 平成 27 年 11 月 30 日 (月) 代議員内定者 141 名の名簿を推薦委員会へ提出
- ・ 平成 27 年 12 月 26 日 (土) 第 4 回委員会 (通信委員会)
これまでの委員会及び選挙状況と今後の作業の確認
- ・ 平成 28 年 2 月 3 日 (水) 第 5 回委員会 (通信委員会)
役員選挙投票用紙一式の確認 (依頼文、投票用紙、支部長リスト、立候補者略歴)

- ・平成28年2月11日(木)第6回委員会
役員選挙投票用紙の発送 理事・監事内定者を確認、理事長・副理事長選挙投票用紙の発送
- ・平成28年3月3日(木)第7回委員会
役員選挙の開票、役員当選者へ結果の発送
- ・平成28年3月22日(火)第8回委員会(通信委員会)
第5期選挙結果の最終確認
- ・平成28年5月の第33回理事会にて第5期選挙結果の報告(予定)

(2)選挙結果

第5期代議員および役員選挙結果を次ページに示す。理事長1名、副理事長1名、理事27名、監事2名、理事27名である。代議員選挙、役員選挙における投票状況は以下のとおりであった。

1)代議員選挙の投票状況

支 部	正会員数	代議員定数	投票数	投票率(%)
北海道	32	4	10	31.3
東 北	52	6	14	26.9
関 東	738	74	133	18.0
東 海	114	12	33	28.9
関 西	226	24	59	26.1
中国・四国	106	12	31	29.2
九州・沖縄	75	9	19	25.3
総 数	1,343	141	299	22.3

2)役員選挙(理事長、副理事長、理事、監事)の投票状況

代議員数	投票数	投票率(%)
141	99	70.0

(3)選挙結果のホームページ掲載について

第5期選挙結果(内定者リストと定員、投票率などの投票状況)を本学会ホームページの選挙管理委員会のページに掲載する。なお、票数は会員以外も見ることに配慮し掲載しない。

3-14. 役員候補者推薦委員会

{委員長:青木 和夫}

役員選出に関する検討委員会の答申内容に基づき、以下のように役員候補者の推薦を行った。

- (1)推薦委員会委員による理事長候補者の推薦(メール審議)
- (2)理事長候補者本人の承諾
- (3)推薦委員会(2016年1月12日)において、理事・監事候補者を推薦
- (4)理事・監事候補者本人の承諾
- (5)候補者の略歴等の作成依頼と内容の確認(必要に応じて修正依頼)
- (6)候補者略歴の選挙管理委員会への送付

3-15. 第56回大会 担当

{担当:吉武 良治}

2015年6月13日(土)~14日(日)、日本人間工学会第56回大会を芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京都港区芝浦)にて開催した。参加者数は、名誉会員3名、正会員267名、学生会員33名、非会員(一般)92名、非会員(学生)80名、賛助会員31名、韓国人間工学会会員30名、協賛団体会員28名、展示企業関係者25名の合計

589名であった。また2日目の公開講座には50名ほどの一般市民の皆様にも参加いただき、2日間にわたって600名以上の参加者であった。2014年が学会設立50周年という区切りの年であり、2015年は51年目という新たな一歩の大会であったことから、大会テーマを「人間工学とデザイン」と設定し、テーマに関連した特別講演や大会企画を中心に日韓合同シンポジウム、公開講座、一般企画シンポジウム等を開催した。懇親会では初めての試みとして人間工学グッドプラクティス賞の授与式を行い、受賞者のプレゼンテーションも行った。主なイベントを以下に示す。

(1)特別講演「ロボットデザイン～環境・情報・機能を有機的に結ぶ機械のデザイン～」

松井 龍哉 フラワー・ロボティクス (株) 代表取締役

(2)学会/大会共同企画シンポジウム「異セクター連携型デザイン開発と人間工学グッドプラクティス」

司会：下村 義弘 (千葉大学大学院)、榎原 毅 (名古屋市立大学大学院)

- ・患者/障害者生活におけるユーザビリティ向上と社会参加のためのデザイン 山中 晶子 (ブライト・ソレイルズ(株))
- ・人間工学と手術環境 外科の立場から 川平 洋 (千葉大学医学部附属病院)
- ・情報システムにおける人間中心設計 福住 伸一 (日本電気(株))
- ・日本人間工学会の産学官民連携開発支援のグッドプラクティス 榎原 毅 (名古屋市立大学大学院)

(3)特別企画「人の暮らしを豊かにするデザイン！」【公開講座】

- ・入浴スタイルとデザイン 橋田 規子 (芝浦工業大学)
- ・使いやすさを追求して進化を続けるクリーナーのデザイン 井戸 健二 ((株)東芝)
- ・人やまちを元気にするデザイン 千代田 健一 (パワープレイス(株))

(4)日韓シンポジウムセッション 10件 (30演題)

(5)一般企画シンポジウム 8件 (34演題)

(6)一般講演27セッション 142件 (内ポスター発表20件)

(7)機器展示 16社

(8)懇親会

場所：ホテル JAL シティ田町 東京 鸞鳳の間 (東京都港区芝浦)

日時：6月13日(土) 18:30-20:30 参加者約170名

※本大会の開催報告については人間工学51巻4号に掲載されている。

4. 支部活動

4-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎}

(1)会議

1)支部役員会

- ・平成26年度 支部事業報告
- ・平成26年度 決算報告並びに監査報告
- ・平成27年度 予算案
- ・平成27年度 支部事業計画案
- ・平成27年度 総会について
- ・平成28年度 支部総会並びに大会について
- ・その他

4-2. 東北支部

{支部長：本多 薫}

(1) 支部役員会

本年度は支部研究会に合わせて支部役員会を3回開催するとともにメール会議を実施して、意見集約を行い支部行事の運営を進めた。

・支部役員会27-1

1) 日時：平成27年9月26日（土）13:10～13:50

2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟110号室

3) 議事：平成27年度支部活動計画、支部役員の役割分担、理事会報告など

・支部役員会27-2

1) 日時：平成27年12月19日（土）13:10～13:50

2) 場所：山形テルサ 研修室A（山形市双葉町1-2-3）

3) 議事：支部役員選挙、支部活動および予算執行状況報告、理事会報告、全国大会開催の意見交換など

・支部役員会27-3

1) 日時：平成28年3月12日（土）13:50～14:20

2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟101号室

3) 議事：支部活動に関する意見交換および予算執行状況報告、理事会報告など

(2) 定時支部総会

支部役員討議と了承を得て、メール審議にて実施。

1) 日時：平成27年5月22日メール発信～5月28日返信〆切にて実施。

2) 場所：山形大学人文学部人間文化学科本多薫研究室にて返信内容確認。

3) 議事：平成26年度事業報告、平成26年度決算報告、平成27年度事業計画案、平成27年度事業予算案について支部役員会提案内容を了承。

(3) 支部研究会等

・支部研究会27-1

1) 日時：平成27年9月26日（土）14:00～17:00

2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟110号室

3) 研究会テーマ：「安全×人間工学」

講演1：JANSIにおける安全文化醸成活動状況ー福島原発事故から再稼動が見えてきた現状までー

講師：浜田 潤 氏（原子力安全推進協会 プラント運営支援部 安全文化Gr）

講演2：航空管制における安全の考え方

講師：狩川 大輔 氏（国立研究開発法人 電子航法研究所 航空交通管理領域）

参加者：16名

・支部研究会27-2

1) 日時：平成27年12月19日（土）14:15～16:50

2) 場所：山形テルサ 研修室A（山形市双葉町1-2-3）

3) 研究会テーマ：「ものづくり現場における人間工学II」

講演1：ゲーム端末を活用した縫製工場における生産管理システムの開発

講師：斎藤 和明 氏（山形県立産業技術短期大学校 産業技術専攻科）

講演2：工数把握による生産改善への取組みの評価

講師：二文字 良 氏、望月 晃二 氏（京浜パネル工業株式会社）

講演3：生産管理システムの導入事例

講師：寺本 雷太 氏（モリタ工業株式会社）

参加者：30名

・支部研究会27-3

1) 日時：平成 28 年 3 月 12 日（土）14:30～17:15

2) 場所：東北大学工学研究科総合研究棟 101 号室

3) 研究会テーマ：「東北の人間工学」

講演 1：ヒトの無意識的な言語情報処理—意識と同時並行処理—

講師：門間 政亮 氏、本多 薫 氏（山形大学人文学部）

講演 2：製品の印象に関する感性工学的研究

講師：和田 裕一 氏（東北大学大学院情報科学研究科）

参加者：14名

4-3. 関東支部

{支部長：阿久津 正大}

(1) 第 45 回関東支部大会・第 21 回卒業研究発表会

・開催日：平成 27 年 12 月 12 日（土）～13 日（日）

・会場：東京電機大学 埼玉鳩山キャンパス

・大会長：矢口博之先生

①支部大会

・パネルディスカッション（公開講座）「人間工学とキャリアデザイン」

講師：佐々牧雄氏（ゼロックス パロアルト研究所）「ユーザーにわかりやすい情報発信とは」

講師：井戸健二氏（株式会社東芝 デザインセンター）「ユーザーにやさしい医療機器デザイン」

講師：石原陽子氏（本田技術研究所 四輪R&Dセンター）「自動車開発における人間工学の応用」

・企画セッション 1セッション5題

「人間工学専門家の活動紹介2015winter」（人間工学専門家認定機構）

・一般講演 8セッション30題、計35題

②卒業研究発表会 11セッション41題

・機器展示、懇親会

・参加者：208名（正会員58名、非会員9名、学生128名、その他13名）

(2) 支部委員会

・開催日：平成 27 年 6 月 13 日（土） 会場：芝浦工業大学 芝浦キャンパス

平成 27 年 12 月 12 日（土） 会場：東京電機大学 埼玉鳩山キャンパス

・議事：平成 26 年度事業報告案および決算案、平成 27 年度事業計画案および予算案、平成 28 年度（第 46 回）支部大会・第 22 回卒業研究発表会、第 19 期関東支部役員選挙について、他

(3) 支部総会

・開催日：平成 27 年 12 月 12 日（土） 会場：東京電機大学 埼玉鳩山キャンパス

・議事：平成 26 年度事業報告案および決算案、平成 27 年度事業計画案および予算案、平成 28 年度（第 46 回）支部大会・第 22 回卒業研究発表会（平成 28 年 12 月 3 日（土）～4 日（日）、会場：高崎経済大学、大会長：久宗周二先生）、第 19 期関東支部役員選挙について、他

(4) 第 19 期関東支部役員選挙の実施

・第 19 期関東支部役員選挙管理委員会（委員長：鈴木玲子先生）による選挙運営により、第 19 期支部委員 40 名、第 19 期支部長：三林洋介先生を選出した。

(5) 見学会

・開催日：平成 28 年 3 月 24 日（木）

見学先：株式会社セントラルユニ mashup studio（東京都文京区湯島）

見学施設：各種医療施設を可視化できる 3D シミュレーション施設、病院事例を閲覧できるブラウジングシステム等の ICT ツール、リアル手術室、各種医療ガス供給設備など、計画から開院後までトータルで働きやす

い病院づくりを支援する先進施設を見学、およびデモンストレーションを体験

・参加者:25名

(6) ニュースレターの発行:見学会の案内(2月)

4-4. 東海支部

{支部長:斎藤 真}

(1) 日本人間工学会東海支部総会開催

- ・開催日時:平成27年5月30日(土) 15:00-15:30
- ・場所:名城大学名駅サテライトキャンパス(名古屋市中村区)

(2) 講演会の開催

- ・開催日時:平成27年5月30日(土) 15:45-16:45
- ・場所:名城大学名駅サテライトキャンパス(名古屋市中村区)
- ・演題:「女性がいきいきと働くための人間工学」
- ・演者:大平肇子(三重県立看護大学教授)

(3) 支部役員会

- ・第1回支部役員会 平成27年5月30日(土) 名城大学名駅サテライトキャンパス
- ・第2回支部役員会 平成27年9月26日(土) 名古屋市立大学芸術工学部
- ・第3回支部役員会 平成28年1月9日(土) 名古屋ガーデンパレス

(4) 日本人間工学会東海支部2015年研究大会の開催

- ・開催日:平成27年11月14日(土)
- ・開催場所:愛知みずほ大学(名古屋市瑞穂区)
- ・大会長:山根 基(愛知みずほ大学講師)
- ・特別講演:「生活習慣病の予防と運動-糖尿病を中心として-」
佐藤祐造(愛知みずほ大学大学院人間科学研究科特任教授)
- ・若手人材支援企画:「シリーズ:実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」
- ・一般講演27題、参加者78名

(5) 東海支部主催「実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」

- ・「第1回 人間工学実験のための生体機能測定入門」
開催日:平成27年11月14日(土)
場所:愛知みずほ大学名古屋キャンパス1号館304・305講義室(名古屋市瑞穂区)
講師:横山清子(名古屋市立大学大学院 教授), 松岡敏生(三重県工業研究所 主幹研究員)
参加者:(20名)
- ・「第2回 モーションキャプチャを使った人の動作計測の基礎」
開催日:平成28年1月21日(木)
場所:名古屋市立大学北千種キャンパス 芸術工学棟 客員教授室・映像スタジオ(名古屋市中村区)
講師:松河剛司(愛知工業大学情報科学部 准教授)
参加者:(14名)
- ・「第3回 人間工学研究で用いる生体指標測定:眼球運動測定」
開催日:平成28年3月4日(金)
場所:オフィスパーク名駅プレミアホール 会議室307(名古屋市中村区)
講師:斎藤 真(三重県立看護大学 教授)
参加者:(13名)

(6) 東海支部支部長および支部役員選挙

2016~2017年度東海支部支部長選出(斎藤真)、東海支部役員17名及び監査2名を選出。

4-5. 関西支部

{支部長:川野 常夫}

(1) 企画・行事等

1) 見学会&講演会

大阪府立産業技術総合研究所（大阪府和泉市あゆみ野）

開催日：平成27年11月12日（木）

時 間：13：30～16：00 参加者 16 名

研究所内見学（生活科学・感覚計測分野、包装・振動衝撃分野など）

講演「自律神経活動に着目した刺激に対するヒトの反応」 片桐真子氏

「褥瘡予防寝具の性能評価技術」 山本貴則氏

2) 支部大会

開催日：平成27年12月5日（土）～6日（日）

主催：日本人間工学会関西支部

場所：大阪府立大学 I-site なんば

大会長：有馬 正和 先生（大阪府立大学）

行事内容：演題総数50件，参加者147名

・特別講演「トリリオン・センサと MEMS ～日本の取り組むべき課題～」

神永 晋 先生（SPP テクノロジーズ（株） エグゼクティブシニアアドバイザー）

・ビッグデータ人間工学研究部会公開講座 4件

・PIE 研究部会企画セッション（生理心理）3セッション13件

・一般発表 11セッション33件

・懇親会

3) 産学交流のための応需型研究会

開催日：平成27年12月10日（金）

時間：13:45～17:45

参加者：学会側9名，企業側12名

場所：コマツ（大阪府枚方市）

4) 春季講演会

開催日：平成 28 年 3 月 26 日（土）

時間：14:00～16:00

会 場：大阪府立大学 I-site なんば

第一部：「視機能からみた身体動作」

講 師：吉井 泉 先生（大阪府立大学 高等教育推進機構・健康科学）

第二部：「身体と場に埋め込まれた「知」を探る ―知の双対構造―」

講 師：大須賀 公一先生（大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻）

5) 協賛

第 20 回モバイル研究会

主催：特定非営利活動法人モバイル学会

テーマ：「IoT とモバイル」

日時：平成 27 年 9 月 12 日（土）

場所：摂南大学 寝屋川キャンパス

招待講演：「IoT 入門 ～デバイスからクラウドまで～」土井 滋貴（奈良工業高等専門学校）

「なぜ今，IoT なのか？」武田 開智（株式会社シナノ電子技研）

「IoT 時代のワークスタイル、ライフスタイルとモバイルデバイス」

上田義弘（富士通デザイン（株） 代表取締役社長）

一般発表：2件

(2) 会議・総会等

1) 第1回企画幹事会

開催日：平成27年 7月 14日 (火)

会 場：摂南大学地域連携センター

2) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成27年12月 5日 (土)

会 場：大阪府立大学 I-site なんば

3) 平成28年度～平成29年度・支部長，副支部長，評議員選挙

投票期間：平成28年 1月4日 (月) ～ 1月17日 (日)

4) 選挙管理委員会

開催日：平成28年 1月29日 (金)

会 場：摂南大学地域連携センター

5) 第2回企画幹事会

開催日：平成28年 1月 30日 (土)

会 場：摂南大学地域連携センター

6) 第2回評議員会メール審議

開催日：平成28年 2月 6日 (土)

議題：優秀発表賞の選考

7) 会計監査

開催日：平成28年3月24日 (木)

会 場：摂南大学地域連携センター

8) 第2回評議員会役員会合同会議

開催日：平成28年 3月26日 (土)

会 場：大阪府立大学 I-site なんば

9) 支部総会

開催日：平成28年 3月26日 (土)

会 場：大阪府立大学 I-site なんば

出席者：27名(+委任状 23名)

10) 優秀発表賞授賞式 (支部総会時) (当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象)

[発表者] 安達悠子 (東海学院大学)

「大学生－看護師間での医療行為に伴うリスクのイメージに対する質的検討」

[発表者] 岡 真裕美 (大阪大学)

「児童の自主性を生かした安全教育の効果 一校外版「ひなどり」の実践一」

[発表者] 小西 宗 (神戸大学)

「船舶運航シミュレータにおける学生の船橋内での行動について」

[発表者] 芝 直幸 (神戸市立工業高等専門学校)

「読み取り誤差を考慮した試験紙吸光光度法による簡易土壌養分検査装置」

[発表者] 清水翔太 (大阪市立大学)

「握り易いグリップの断面形状に関する研究」

4-6. 中国・四国支部

{支部長：岡 久雄}

(1) 支部理事会開催

第1回2015年12月13日(日) サテライトキャンパスひろしま

第2回2016年3月29日(火) 岡山大学医学部

(2) 支部総会開催

2015年12月13日(日) サテライトキャンパスひろしま

(3) 第48回日本人間工学会中国・四国支部大会

2015年12月13日(日) サテライトキャンパスひろしま

大会長：樹野淳也先生(参加者：74名)

一般講演33件

(4) 支部講演会開催

開催日：2015年12月13日(日)，場所：サテライトキャンパスひろしま

題目：「産総研自動車ヒューマンファクター研究センターの概要と取り組みについて」

講師：北崎智之氏

(国立研究開発法人産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター研究センター長)

(5) 支部協賛講演会開催

開催日：2015年6月4日(金)，場所：広島大学大学院工学研究科

題目：「スマートスーツ(R)で軽労化(R)～人間工学的アプローチで作業支援のあり方を考える～」

講師：田中孝之先生(北海道大学大学院情報科学研究科システム情報科学専攻 准教授)

(6) 平成27年度支部表彰の実施

支部表彰選考委員(岡久雄支部長(岡山大学大学院)，西川一男副支部長(マツダ)，田口豊郁支部理事(川崎医療福祉大学))による絶対評価を実施した結果，総得点の上位2位に入った以下の論文が優秀論文として表彰された。

講演番号：306

非侵襲的な腰部負荷推定法の開発

木村弘樹(高知工科大学大学院) 他2名

講演番号：505

乳幼児のハイハイ動作解析に基づく発育評価支援システムの開発

川嶋克明(広島大学) 他14名

4-7. 九州・沖縄支部

{支部長：和田 親宗}

(1) 第36回支部代議員会

1) 月 日：平成27年10月26日(月)

2) 会 場：川棚グランドホテル(山口県下関市)

3) 議 題

- ・平成27年度活動報告と決算
- ・平成28年度活動計画と予算案
- ・平成28年度第37回大会について
- ・その他

(2) 第36回支部総会

1) 月 日：平成27年10月26日(月)

2) 会 場：川棚グランドホテル(山口県下関市)

3) 議 題

- ・平成27年度活動報告と決算
- ・平成28年度活動計画と予算案

- ・平成 28 年度第 37 回大会について
 - ・その他
- (3) 第 36 回九州・沖縄支部大会
 (電子情報通信学会第 81 回福祉情報工学研究会と共催)
- 1) 月 日：平成 27 年 10 月 25 日（日）～26 日（月）
 - 2) 会 場：川棚グランドホテル（山口県下関市）
 - 3) 大会長：藤木通弘（産業医科大学 産業生態科学研究所）
 - 4) 発表演題数：計 17 件
 - 参加者：延べ 54 名
 - 最優秀発表賞：倉岡宏幸（九州工業大学）
 - 優秀発表賞：鶴原一樹（産業医科大学）ならびに山口高敏（九州工業大学）
 - 懇親会：川棚グランドホテル（山口県下関市）
 - (4) 「九州支部第 36 回大会講演集(九州人間工学 第 36 号)」の作成
 - (5) 「九州人間工学 第 36 号」の発送

5. 研究部会活動

5-1. 医療安全研究部会

{部会長：土屋 文人}

(1) 活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

(2) 活動内容及び成果

平成 27 年度は平成 26 年 12 月に消費者安全調査委員会からこどもの医薬品誤飲に関する中間報告が出され、引き続きパネル試験が実施されることとなったことから、その経緯を見守りつつ医薬品の包装に関するシンポジウムを開催する方針であった。平成 27 年度の途中から厚生労働科学特別研究「子供の医薬品誤飲防止のための包装容器評価に関する研究」がスタートすることになり、その検討が平成 27 年度一杯かけて実施され、研究成果が平成 28 年 5 月末にまとめられることから、当初予定していたシンポジウム等の計画は次年度に実施することとした。

5-2. 衣服人間工学部会

{部会長：永富 彰子}

(1) 平成 27 年度活動テーマ

平成 24 年度より「グリーンファッションに関する研究」について、アパレル企業の現状を含め、どのように取り組むかを研究テーマとしてきた。

平成 27 年度は、環境問題を視野に入れ、質の良い製品・生産について研究活動、啓蒙活動を進めることを目的に、教育における研究者、アパレル企業からは繊維、縫製関係者に参加依頼をし、衣服設計に関する講演会とパネルディスカッションを中心に活動した。

(2) 活動内容

平成 27 年度は役員会 3 回、例会 2 回を開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

- 1) 第 1 回役員会：平成 27 年 6 月 1 日(月)， 於 文化学園大学

- 2) 第2回役員会：平成27年10月17日(土)，於 文化学園大学
 3) 第3回役員会：平成28年 2月22日(月)，於 文化学園大学
 4) 第1回研究例会(公開講座)

- ・開催日：平成27年10月17日(土) ・場 所：文化学園大学
- ・テーマ：「サステナブルなものづくり」
- ・講演：「大学における授業への取り組み実施から」 文化学園大学 砂長谷由香氏
 「消費者(若者)の意識調査から」 文化学園大学 米本 秋子氏
- ・特別講演：「アパレル縫製産業の立場から」 岩手モリヤ株式会社代表取締役社長 森奥 信孝氏
 「繊維産業の立場から」 日本毛織株式会社東京支社長 丹下 昇 氏
- ・パネルディスカッション コーディネーター 衣服人間工学部会部会長 永富 彰子
 パネリスト 講演者の四氏

5) 第2回研究例会

- ・開催日：平成28年2月22日(月) ・場 所：文化学園大学
- ・演 題：「見えない人でも衣服の色を楽しむために — 触覚カラータグ “いろポチ” の開発経緯 —」
- ・講演者：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 名誉リーサーチャー
 日本女子大学 家政学部被服学科 非常勤講師 佐川 賢氏

(3) 成果

- ・第1回研究例会は、「サステナブルなものづくり」のテーマのもと講演をいただき、繊維産業、アパレル産業、教育、消費者それぞれの立場からの環境に関わる意識および対策、未解決の問題等について再認識することができた。
- ・第2回研究例会では、自分の着る服の色は自分で知りたいという障害を抱える方のニーズに答えた、色覚情報を認識するための触覚カラータグ開発の話の伺い、ユニバーサルファッションとしてコミュニケーションを図ることが出来る取り組みについて意識する良い機会となった。

(4) 問題点

- ・産学共同で、より衣服人間工学の視点からの議論・検討を進め、衣服の作り手側だけではなく消費者の考え方も、共にエコを進める工夫が必要である。

(5) 展望

- ・今年度の公開講座から、この分野での産学共同研究の可能性を感じた。ものづくりに関わる中・小企業等への研究成果の発信を積極的に展開していきたい。

5-3. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

(1) 活動目的

本部会は、ヒトの触覚感覚という特性を機器やシステムなどに反映させることを研究する部会であり、触覚に関する基礎研究と応用研究の両側面を扱おうとしている。特に応用研究では実際の製品設計プロセスで活用できるノウハウを蓄積し、それらを積極的に公開することで触覚インタラクションの活用を促進することを目的としている。

(2) 活動内容及び成果

- 1) 2015年日本人間工学会誌第51巻3号にて総説「研究部会の歴史と現況」に触覚インタラクションの活動報告を執筆した。
- 2) 2015年8月にロサンゼルスで行われたHCI International 2015において研究部会によるオーガナイズドセッションを開催し、関連の研究者と今後の触覚インタラクションの研究の方向性について議論する機会を得た。セッションでの演題は以下の通りであった。
 - ・ Study of Haptics and Tactile Sense of the Direction of Movement

- Designing Memorable Tactile Patterns
 - Induction of a Relaxed State Using a Vibration Stimulus Based on the Respiratory Cycle
 - Changes in Heart Rate Variability by using Tactile Thermal Interface Device
- 3) 2016年3月14日に部会運営委員会および研究会が行われた。2件の研究発表と研究部会の環境整備、定期行事の確認、ホームページの更新および触覚研究関連情報の発信手段の検討などの打ち合わせを行った。また、国内での関連動向に関する報告などが行われた。

5-4. 航空人間工学部会

{部会長：田中 敬司}

(1) 研究目的

航空人間工学に関する知識の普及および情報の共有化を目的として、本年度は、「航空安全の課題と展望」をテーマとした活動を行った。

(2) 方法・手段

上期の活動として例会を開催した。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

1) 研究例会の開催

第97回例会を以下の内容で開催した。

本年度のテーマ「航空安全の課題と展望」に沿った講演を行い、活発な議論が行われた。

日時：2015年6月26日（金） 10:30-16:40

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 101号室

参加者数：101名

講演：

- 演題 「航空自衛隊における飛行安全活動について」
講演者 片寄 隆正 氏（航空自衛隊 航空安全管理隊 教育研究部主任研究官）
- 演題 「VOICES（航空安全自発報告制度）について」
講演者 上田 裕久 氏（公益財団法人 航空輸送技術研究センター 技術部 部長）
- 演題 「AMET（Automation and Maneuvering Extra Training）について
-Automation Addiction」
講演者 眞鍋 俊哉 氏（日本航空株式会社 運航本部 運航安全推進部
分析グループ アシスタントマネジャー）
- 演題 「アジアナ航空（OZ214） SFO 事故について」
講演者 難波 宏吉 氏（全日本空輸株式会社 安全推進センター 安全推進部
安全マネジメントチーム テクニカルスタッフ B777 機長）
- 演題 「ICAO RPAS Panel における遠隔操縦航空機ルールの検討状況について」
講演者 河野 敬 氏（国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 航空技術部門
航空技術実証研究開発ユニット 無人機技術研究グループ
安全技術セクション リーダー）

2) 施設見学会

平成27年度施設見学会を以下の要領で実施した。

日時：2016年2月19日（金） 13:00-16:40

場所：東日本旅客鉄道株式会社 教育訓練施設

参加者数：35名

内容：・概要説明（運転士、車掌、指令等の各種資格の取得訓練説明等）

・シミュレータ見学ならびに質疑応答等

3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。
委員会の概要は以下のとおりである。

・第61回委員会（2015年度第1回委員会）

日時：2015年11月24日（火） 16:30-18:00

場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議題：

- ・第97回例会報告
- ・委員の交代等
- ・今年度見学会の準備
- ・来年度例会の準備
- ・次回委員会の予定

・第62回委員会

日時：2016年3月9日（水）16:30-18:00

場所：（公財）航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議題：

- ・見学会報告
- ・2015年度会計報告
- ・2015年度事業報告
- ・2016年度事業計画
- ・第98回例会の準備
- ・次回委員会幹事会の予定

その他、委員会および例会の活動準備等のため、2015年度は幹事会を3回開催した。

4) ホームページの運営

インターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。例会及び施設見学会の申し込みはホームページから行えるようになっており、広く周知できることで、今年度の活動においては非会員からの参加申し込みも多数あった。

(3) 成果及び展望

本年度は「航空安全の課題と展望」をテーマに、例会では講演を通して、組織的な安全管理活動、事故調査に基づく再発防止策の策定、ヒューマンファクターを含む教育・訓練、自発報告制度を活用した本邦の航空安全レベルの底上げ、自動化が進んだ近年の航空機において事故を防ぐために求められる新たな訓練コンセプト、ヒューマンファクターの要素が多く関与したと考えられる海外航空機事故、近年話題になっている無人航空機に求められるルール策定状況について参加者間でそれらの知見を共有し、理解を深めることができた。

また、施設見学では東日本旅客鉄道株式会社様に自社の教育・訓練施設の見学を実施させていただき、安全運行を担保するための訓練審査体系やヒューマンファクターが多く関与したと見られる過去の事例の説明をいただくことによりヒューマンファクターに注目した安全面の向上の重要性を参加者で再認識・共有できたものとする。

5-5. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

(1) 目的と活動テーマ：

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。平成27年度は「HCD+SCDを実践するデザイン手法の確立」を活動テーマに、Social Centered Designの事例研究を中心に進め、ソーシャルセンタードデザイン

ン(SCD)のための手法確立に向け、方向性を見いだす研究とその成果の情報発信を行ってきた。

(2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員：154名(正会員71名、学生会員83名、平成28年3月12日現在)
- ・活動概要：平成27年度はシンポジウム等2回、大学間交流イベント1回、コンセプト事例発表会1回、見学会1回、合宿研究会1回、他に、幹事会6回、総会1回、ソーシャルセンタードデザイン・ワーキンググループ(SCD-WG)ミーティング5回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

1) 日本人間工学会第56回大会シンポジウム「未来を描くソーシャルセンタードデザイン」

於：芝浦工業大学芝浦キャンパス 参加者：45名(平成27年6月13日)

座長：山崎和彦(千葉工業大学)、司会：郷健太郎(山梨大学)、パネリスト：上田義弘(富士通デザイン)、安藤昌也(千葉工業大学)、高橋克実(ホロンクリエイティブ)、細田彰一(日本工業大学)

2) 大学間交流イベント「三方よしのソーシャルセンタードデザインにチャレンジしよう」を開催。

於：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、参加者：学生26名、教員4名(平成27年7月4日)

3) コンセプト事例発表会開催(平成27年9月14日)

於：首都大学東京サテライトキャンパス、参加者：31名

論文発表：7件、ポスター発表：12件、加えてパネルセッション3件を実施。

4) 見学会開催(平成27年10月27日) 見学先：「デンソーギャラリー」見学会参加者：6名

テーマ：「モビリティ・ソリューションの未来から社会環境ソリューションまで」於：(株)デンソー(刈谷)

5) ソーシャルセンタードデザインフォーラム開催(平成27年11月26日)

於：イトーキ東京イノベーションセンターSYNQA 参加者35名

テーマ：「ソーシャルセンタードデザインの事例とアプローチ」

松井 創氏((株)ロフトワーク)、八木田寛之氏(三菱日立パワーシステムズ(株))

6) 「HCD-Netサロンin京都」SCD_WG パネル発表(平成28年1月8日)

於：第59回HCD-Netサロン関西 京都工芸繊維大学、参加者数：110名

7) 2015年度合宿研究会In箱根(平成28年3月11日、12日)

於：箱根湯本ホテル(箱根湯本)会議室、参加者：28名

テーマ：「三方よしの体験を創造するビジョン提案型デザイン手法」

ワークショップ：「箱根」、「観光」、「IoT」をキーワードに新しいサービス

講演：「NEST(AI機能付サーモスタット)にみるIoT事例とその考え方」

講師：白井和康(株式会社ビジネスイノベーションハブ代表)

8) 2015年度部会総会開催(平成27年3月12日)

於：箱根湯本ホテル 会議室、参加者：25名

2015年度活動報告及び決算、2015年度活動計画及び予算の審議、承認

9) WG活動：

SCD-WG活動中(担当幹事：高橋(克)、山崎、上田、早川、郷、西内、安藤、笠松、八木)

10) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、幹事会メーリングネットワークの運用を実施。新デザインの部会ホームページで運営。

(3) 成果と展望：

- ・ヒューマンセンタードデザイン(HCD)に加え、社会、環境面からもデザインを考えるソーシャルセンタードデザイン(SCD)の概念を提唱してきたが、新たなエクスペリエンスビジョン(Experience Vision)を「三方よしのビジョン提案型デザイン手法」として、実践的な手法が見えてきた。
- ・今後はソーシャルセンタードデザイン(SCD)の言葉は使わず、三方よしのビジョン提案型手法として、進化させたExperience Visionの手法の確立を進め、実践事例を通じた研究のまとめをしていきたい。

5-6. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：梶谷 哲也}

(1)活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

(2)手段・方法

- 1) 第1回研究会 (3タイトル) を11月21日(土)に、首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパスにて開催した。
 - ・佐藤 壮平 (首都大学東京大学院 人文科学研究科 心理学分野)
「運動する視対象の印象を2次元フーリエ解析で評定する方法について」
 - ・馬場 哲晃 (首都大学東京 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域)
「プロトタイピングによる体験価値創出と、研究、製品デザインへの展開」
 - ・江原 康生 (大阪大学 情報推進本部/サイバーメディアセンター)
「遠隔コミュニケーションにおけるユーザに必要とされる臨場感とは」
- 2) 第2回研究会 (1タイトル) を2月20日(土)に首都大学東京 日野キャンパスにて開催した。
 - ・瀬尾 明彦 (首都大学東京 システムデザイン学部 教授)
「作業姿勢の計測と評価ー産業人間工学の立場からー」
- 3) 第24回システム大会の感性情報処理・官能評価セッション (平成28年3月10日(木))において、若手研究者による7件の発表講演を組織、支援した。詳細はシステム大会部会より報告。
- 4) Rを用いた統計講習会を3月22日(火)に、首都大学東京・南大沢キャンパスにて開催した。
 - ・草野 勉 (神奈川大学人間科学部)
「Rを用いた統計処理、多変量解析」

(3)成果

- 1) 第1回研究会には15名の参加があり、萌芽的なアプローチによる研究や製品デザインへの展開などについて、活発な議論が行われた。
- 2) 第2回研究会には8名の参加があり、産業人間工学の新たな視点として、感性・官能評価的な視点の必要性をめぐって、熱心な質疑、討論が行われた。ただし、当日は天候が開催日になって、急激に悪化したため、人間工学の中心的な視点に従った研究分野と感性・官能の関係に関する議論を、(多様な会員から)多様な視点から十分に検討することが出来なかった。
- 3) 第24回システム大会での各発表者にとって、今後の研究の展開に有益な助言を得るきっかけを作ることができた。現在、少なくとも助言者との共同研究が1テーマ行われている。
- 4) Rを用いた統計処理・多変量解析には、11名の参加があり、感性の研究に必須となる統計や多変量解析を、R言語を用いて十分な精度で行えることを確認した。加えて、R言語は無料で利用可能な言語ではあるものの、投稿論文にも十分利用できることを実例とともに確認した。
なお、この講習会には、予想外に企業の参加者が多く、R言語のニーズと有効性・有用性を改めて確認した。また、講師の先生から、オリジナルのテキスト、サンプルデータ等をいただいて、講習以後、自己学習するために十分な教材の提供を受けた。

(4)問題点と展望

本年度実施した事業はそれぞれ有益な成果を上げたと考えている。

今後も、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究に関する、発表・(指導的な指摘も含めた)議論ができる場を提供して行きたい。ただし、一連の研究会への参加者各々の研究の裾野を広げるとともに、その視点を高くすることが出来たかについては、まだ分からない状態である。

今後も、感性・官能の分野を研究領域に含む若手の研究や萌芽的研究の活性化を中心にして事業を行ってゆく必要がある。

5-7. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器機・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な職場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

(2) 手段・方法

1) 第23回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成27年10月31日(土)に宮崎県立看護大学において宮崎県立看護大学の長坂猛准教授が主催した。一般演題の発表、宮崎大学 田村宏樹先生による教育講演「介護・福祉への応用を目指した生体情報処理技術について」ならびに福岡県立大学 江上千代美先生による特別講演「眼球運動から見える看護」が行われた。

2) 「人間工学」誌に部会会員が論文投稿するよう呼びかけた。

3) 看護人間工学研究誌第16巻を発行(平成28年3月)し、部会員に送付した。

4) ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第57回大会への参加を広くよびかけた。

(3) 成果

1) 第23回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会

参加者は31名、一般演題10題の発表があった。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。

2) 部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿

Vol. 51(6)に小長谷らの「高齢者にとっての点眼容器の使いやすさに関する研究」が資料として掲載された。

3) 看護人間工学研究誌第16巻を発行(平成28年3月)し、部会員に送付した。

寄稿2編、原著3編、研究報告1編、事例報告1編、第23回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

(4) 問題

1) 看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員がいる。

2) 「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。

3) 部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

(5) 展望

1) 看護人間工学部会員の人間工学会への入会促進に向けて引き続き取り組んでいく。

2) 本部会での研究発表と「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿を促進する。

3) 看護人間工学部会のホームページの英語版を設ける。

4) 看護人間工学研究誌、研究発表会の充実をはかる。

5-8. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

(1) テーマ

人に関する幅広い領域での技術調査と海事人間工学研究への応用

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案

平成27年6月、日本人間工学会第56回大会にて、「シーマンシップ」をテーマとしたシンポジウムを企画、開催した。演題と講演者は下記の通りである。

- ・海事教育とシーマンシップ 古莊雅生 (神戸大学)
- ・シーマンシップと海難 竹本孝弘 (東京海洋大学)
- ・一般社会から見たシーマンシップ 野中誉子 (湘南工科大学)

2) 研究会・見学会の開催

平成27年11月20日、神戸において下記の2講演を含む研究会を開催した。また、同日の神戸大学の船舶運航シミュレータの見学会を開催した (ICETET-15 と Joint 開催)。いずれも30名ほどの参加があり、関心の高さ

が窺えた。

- Developmental Retardation Quantification Based on Brain Morphometry Analysis, Syoji Kobashi, Professor (University of Hyogo)
- Actual Maneuvering Performance of Big Cruise, Capt. Kazunori Fujise (Hakata Pilot Association)

3) 幹事会の開催

研究部会の円滑な運営を図るため、幹事会を2回開催した。

4) 協賛

- 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision (ICIEV)を協賛し、Luncheon Seminar 及び Organized Session を企画した。
- 7th International Conference on Emerging Trends in Engineering & Technology (ICETET-15)を協賛し、大須賀美恵子教授の招待講演を企画した。

(2) 成果

研究会と見学会の開催や国際会議への Joint、セッション企画を行うことにより、最新の海事関連の研究情報を発信するとともに、他分野の研究者との活発な情報交換を促進し、海事関連の研究を多角的に発展させた。成果の一部は、学会誌「人間工学」Vol. 52 No. 1 に総説「特集①：分野別人間工学の現状と将来(15) 海事人間工学の現状と将来」として掲載された。

(3) 展望

今後も引き続き、海事分野の若手研究者を開拓し、人間工学分野に係わる研究者を獲得するために、学会員にとって魅力的な研究会及び見学会を開催する。

5-9. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長：新家 敦}

(1) 活動目的

ビッグデータ解析に人間工学の知恵を与える。

(2) 手段・方法・成果

- 1) 外部講師によるビッグデータ利活用事例紹介を人間工学研究者向けに行う。
- 2) 企業のデータサイエンティスト向けに人間の行動特性、認知特性についての講演会を行う。
1項および2項について、全国大会でのシンポジウムおよび、関西支部大会内で開催した公開講座をもって成果とする。
 - 成果1：日本人間工学会第56回大会（2015/06/13-14、芝浦工業大学）において、シンポジウム「ビッグデータと人間工学」を開催した。参加者80名、4件の発表およびパネルディスカッションを行った。参加者数は前年度の大会と比較して約3倍となり、学会員の注目度が高くなっていると感じた。
 - 成果2：平成27年度 日本人間工学会関西支部大会（2015/12/5-6、大阪府立大学 I-site なんば）の2日目、当部会にとって初の公開講座「ビッグデータを人間工学の視点で観る」を開催した。参加者約50名、4件の発表およびパネルディスカッションを行った。講演は外部講師による事例紹介2題（ソフトウェア開発プロジェクトの品質、損害保険業界のビッグデータ活用）、またビッグデータを扱うためのツールの紹介として2題（Tableau、MATLAB）の計4題とした。本公開講座により、学会員外の参加者（主に医学系教員・医師）を支部大会に呼び込めたのは人間工学研究分野の良いアピールになったと考える。
- 3) ビッグデータで得られる相関関係について、因果関係を割り出すための人間行動特性データベースの検討を行う。
未着手に終わった。
- 4) 学会誌にビッグデータ関連の投稿を行う。
日本人間工学会第56回大会の参加記1件、ビッグデータ人間工学研究部会主催 公開講座の報告1件の投稿があった。

5-10. 安全人間工学研究部会

{部会長：鳥居塚 崇}

(1) 研究部会の会員と、研究会の参加者を結ぶメーリングリスト (H28年3月末現在165名登録) を用いた情報発信を行っている。鳥居塚 (日大) ほか、中西 (慶應義塾大)、吉村 (海技研) が幹事メンバー。安全人間工学委員会と常に情報を交換・共有し、安全人間工学委員会 (芳賀繁委員長) の委員も部会運営に協力した。

(2) 平成27年度は3回の研究会を開催 (主催・共催を含む) した。その日時、場所、演題は下記のとおりである。

1) 第24回研究会 (日本人間工学会第55回大会での企画セッションとして開催)

日時：平成27年6月13日 (日) 16時45分～18時00分

場所：芝浦工業大学

司会：鳥居塚 崇 (日本大学生産工学部)

セッションタイトル：Safety II の方法論

話題提供者：小松原 明哲 (早稲田大学)

タイトル：Safety2 の考え方とその方法論

話題提供者：中西 美和 (慶應義塾大学)

タイトル：レジリエント・コンピテンスを抽出する方法としてのCritical Decision Method

話題提供者：首藤 由紀 (社会安全研究所)

タイトル：災害対応のためのノンテクニカル・スキル訓練

2) 第25回研究会 (日本学術会議安全工学シンポジウム2015のオーガナイズドセッションとして開催)

日時：平成27年7月3日 (日) 14時20分～15時50分

場所：日本学術会議

司会：芳賀 繁 (立教大学現代心理学部)

セッションタイトル：防災と人間工学

話題提供者：水田恵三 (尚絅学院大学)

話題提供者：八木 絵香 (大阪大学)

話題提供者：首藤 由紀 (社会安全研究所)

3) 第26回研究会 (産業組織心理学会作業部門研究会、日本認知心理学会安全心理学研究部会との共催)

日時：平成27年12月19日 (土) 14時00分～17時00分

場所：筑波大学社会人大学院キャンパス 1階119講義室

企画：大橋智樹 (宮城学院女子大学)、芳賀繁 (立教大学現代心理学部)

司会：大橋智樹 (宮城学院女子大学)

タイトル：参加型研修による教育・訓練の効果と今後の展開

話題提供

研究者の立場から：研修ツールの開発 吉川肇子 (慶應義塾大学)

実務家の立場から：中村文子 (日本航空 (株) 客室本部)

鹿毛佳子 (東京電力 (株) 経営技術戦略研究所)

阿部啓二 (西日本旅客鉄道 (株) 安全研究所)

パネルディスカッション：話題提供者4人+芳賀繁 (立教大学)

5-11. PIE 研究部会

{部会長：三宅 晋司}

(1) 活動目的

IEA (International Ergonomics Association) の TC (Technical Committee) である Psychophysiology in Ergonomics の日本支部としての位置付けとして、最近、活動が低下している PIE を日本発で盛り上げるとともに、国内の活動として、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新し

い生理計測手法や装置に関する情報交換と課題の抽出を行う、さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓発活動を行う。

(2) 平成 27 年度の活動内容および成果

1. 4月に設立が承認された。ホームページ (<http://pie-iea.org/JP/>) を開設し、入会受付やイベントに関する情報発信を開始した。またメーリングリストを整備し、部会員への情報伝達、交流に利用している。
2. 第 56 回大会 (6 月 13 日 16:45-18:30) にてキックオフシンポジウム「生理心理計測の人間工学的応用」を開催し約 70 名が参加した。3 名の発表、2 名の指定討論者の発言の後、フロアを含めた討論を行った。この報告は「人間工学」Vol. 51, No. 4 に掲載された。
3. 第 1 回部会ミーティングを開催し (名古屋市立大学 7 月 18 日 12:00-14:00)、運営方針について話し合った。
4. IEA2015 (メルボルン 8 月 10 日 11:00-12:30, 15:30-17:00) にて、PIE のオーガナイズドセッションを開催した。午前、午後ともに、5 件の演題、約 30 名の参加があった。報告は「人間工学」Vol. 51, No. 5 に掲載された。
5. 九州・沖縄支部大会 (川棚温泉 10 月 25-26 日) の一部の発表を共催した (全体 17 件, PIE セッション 6 件)。九州工業大学の倉岡宏幸氏が最優秀発表賞を受賞した。支部大会報告は「人間工学」Vol. 51, No. 6 に掲載されている。初日の夕刻に部会ミーティングを開催し、また初日の夜、研究交流会 (テーマ「日常生活で使える生体計測装置の活用と課題」) を開催した。
6. 第 1 回ワークショップ「お手軽生理計測と統計解析 tips」を大阪 (大阪工業大学うめきたナレッジセンター) にて開催 (平成 28 年 3 月 11 日) し、講師、協力学生を含め 28 名が参加した。

部会員数は 3 月末現在で、56 名 (内日本人間工学会非会員 23 名) である。初年度の活動を軌道に乗せると言う目標は十分に達成できたと考える。

5-12. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1) 活動テーマ:

感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム大会と称して 24 年前に発足した。今回は東海大学が主催し、早稲田大学・西早稲田キャンパス (東京都新宿区) にて 3 月 10 日、11 日の二日間の日程で開催された。企業展示を含め、のべ 80 名を超える参加者があり、成功裏に終了した。特に今回の大会では遠方からの若手研究者、企業関係者の参加が多く、活発な情報交換が行えた。大会および大会開催に向けて数回の幹事会を開いたので報告する。

(2) 部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第 1 回システム大会幹事会

日時：2015 年 7 月 4 日 (土) 15:00~16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス (東京都新宿区)

議題：本大会の今後の事業形態・開催形態 等

・第 2 回システム大会幹事会

日時：2015 年 10 月 3 日 (土) 15:00~16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス (東京都新宿区)

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

- ・第3回システム大会幹事会

日時：2015年12月19日(土)15:00～16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都新宿区）

議題：プログラム枠作成，企業展示検討，他

- ・第4回システム大会幹事会

日時：2016年2月27日(土)15:00～16:00

場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス（東京都新宿区）

議題：最終プログラム作成，大会進行詳細決定，他

(3)展望：

発足時は身内開催の性質が強かったシステム大会であるが，近年全国より演題が集まるようになった。これを機に，より開かれた学会を目指し，JES 発展に向けて積極的展開ができればと考えている。また部会の論文誌「人とシステム」における電子媒体活用も検討を続けていく予定である。

Ⅱ. 平成27年度収支計算書(案)

さしかえる1

さしかえる2

さしかえる3

さしかえる4

さしかえる5

さしかえる6

さしかえる7

※さしかえる8※

意見書

平成27年度の会務の執行が適切に行われ、各費目別収入、支出
ならびに資産、負債、財産目録の数値を関係帳簿と照合し正確で
あることを認めます。

平成 年 月 日

一般社団法人日本人間工学会

監事

監事

Ⅲ. 平成28年度事業計画(案)

1. 事業計画

{総務担当：中西 美和、大橋 智樹}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、安寧な社会システムを構築するために寄与することを目指す。
- (2) 第57回大会を斎藤 真大会長のもと平成28年6月25日(土)～26日(日)に三重県立看護大学で開催する。
- (3) 平成28年定時社員総会を平成28年6月25日(土)に三重県立看護大学において開催し、平成27年度事業報告・収支決算、平成28年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第58回大会ならびに第2回アジア人間工学・デザイン会議(ACED)を小谷賢太郎大会長のもと平成29年6月1日(木)～4日(日)に千葉県習志野市で開催することとし準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) ホームページのコンテンツの充実、機能の追加をはかり、ホームページならびにニュースレターを中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第52巻2～6号および第53巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナーを開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、安全人間工学委員会、学術担当、企画担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、学会改革・戦略委員会、倫理指針検討委員会(正式名称：人間工学研究のための倫理指針検討委員会)、子供のICT活用委員会、第57回大会担当および第58回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海事人間工学研究部会、ビッグデータ人間工学研究部会、安全人間工学研究部会、PIE研究部会、システム大会部会の計12研究部会で活動を行う。
- (11) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA会長業務のサポート、IEAウェブサイトのリニューアル支援、次年度IEA評議会への出席準備、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会の協力をを行う。
- (12) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。
- (13) 平成28年度各賞の授与式を行う。また平成29年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (14) 安全問題にかかわる日本人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (15) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。日本学術会議主催の「安全工学シンポジウム2016」を企画・運営する。
- (16) 学会主催の公開講座、シンポジウム等の行事に関する企画と調整を行う。
- (17) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

2. 委員会・担当活動

[常設委員会・担当]

2-1. 広報委員会

{委員長：松田 文子、副委員長：山田クリス孝介}

- (1) 理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。重要ニュースのお知らせ、学会主催／協賛等のイベント案内等をHPにて迅速に情報発信していく。
- (2) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」およびグッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続し、人間工学の社会への普及に努める。表彰委員会・人間工学専門家認定機構と連携し、「専門家100名が選んだ人間工学GP賞」を活用した情報発信に取り組む。
- (3) HPのスペシャルコンテンツ「ピックアップがんばる人間工学家！」の企画・運営（取材・記事制作・HP掲載）を引き続き行い、人間工学人材の社会における活躍を情報発信していく。また、全国大会の特別講演映像を学会員専用サイトにて閲覧できるように整備を進める。
- (4) 学会員へJESニュースレターのe-mail配信を、引き続き学会事務局と連携し推進する。
- (5) 編集委員会と連携を図り、電子査読システムについて、システムの改修を技術的に支援する。
- (6) 50周年記念企画として継続検討してきた「人間工学博物館（バーチャルミュージアム）」の実装に向け、整備を進める。

2-2. 編集委員会

{委員長：赤松 幹之、副委員長：榎原 毅}

- (1) 学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う。
- (2) 「人間工学領域発展のための場」としての学会誌のあり方について、方針を定める。
- (3) 論文投稿の推進を図る。投稿推進につながるクイック・レビュー制度を継続するほか、推進施策について引き続き検討を行う。
- (4) 投稿者への利便性向上、迅速な審査体制の整備および編集委員会業務の効率化を図るため、広報委員会と協力・連携し、前年度より開始した電子査読管理システムを継続運用する。遅滞ない業務遂行を実現するため、学会事務局の協力を仰ぐ。利便性向上のために、必要に応じてシステムの改訂を行う。
- (5) 研究上の倫理的配慮と利益相反の申告、著作権譲渡に関して、学術担当と連携して、会員への啓蒙をはかる。
- (6) 編集委員会を月1回開催する。うち、6回は対面委員会、6回はメーリングリストによる電子委員会とする。また対面委員会のうち2回程度は全体会議、4回程度は数拠点つないだweb会議とし、いずれも個人単位のweb参加を可とする。これにより、委員会経費の節減を図るとともに、編集委員の居住地格差が起きないようにする。
- (7) その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。

2-3. 国際協力委員会

{委員長：小谷 賢太郎、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) 日韓共同シンポジウム2016（2016.6.2～4 韓国済州島）のJES窓口として会員参加への協力と開催対応
- (2) IEA評議会(11月上旬予定)への参加 メデジン、コロンビア
国際協力委員がJESからのcouncil memberとして3名分の投票権執行
- (3) 国際協力活動およびその他
 - ・IEAアワード申請への協力
 - ・IEA内の各委員会への協力
 - ・ACED2017開催に向けての支援

- ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- ・学会誌への国際学会参加報告の執筆 など

2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志, 副委員長：佐藤 洋}

ISO/TC159 (人間工学) 分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。

(1) 会議：全体会議3回、分科会延べ30回前後開催予定

(2) 予定されている主な審議項目

- ・ SC1 (人間工学の一般原則)
 - ・ ISO/FDIS 6385 Ergonomic principles in the design of work systems
 - ・ ISO/DIS 10075-1 Ergonomic principles related to mental work-load — Part 1: General concepts, terms and definitions
- ・ SC3 (人体寸法と生体力学)
 - ・ ISO/DIS 7250-1 Basic human body measurements for technological design — Part 1: Body measurement definitions and landmarks
 - ・ ISO/FDIS 20685-1 Ergonomics — 3-D scanning methodologies for internationally compatible anthropometric databases — Part 1: Evaluation protocol for body dimensions extracted from 3-D body scans
- ・ SC4 (人間とシステムのインタラクション)
 - ・ ISO/DIS 9241-11 Ergonomics of human-system interaction — Part 11: Usability: Definitions and concepts
 - ・ ISO/AWI 21056 Ergonomics — Accessible design — Guidelines for designing tactile symbols and letters
- ・ SC5 (物理環境の人間工学)
 - ・ ISO/DIS 7243 Ergonomics of the thermal environment — Assessment of heat stress using the WBGT (wet bulb globe temperature) index
 - ・ ISO/NP 7726 Ergonomics of the thermal environment — Instruments for measuring physical quantities

(3) 国際会議予定

- ・ TC159/SC4/WG1 会議 (東京)、TC159/SC4/WG6 会議(札幌)、TC159/SC1/WG5 会議(サスカチューン)、TC159 総会 (ストックホルム)、TC159/SC1/WG5 会議(デリー)、TC159/SC3 総会&WG1 会議 (ストックホルム)、TC159/SC4 総会 (韓国)、TC159/SC4/WG6 会議(ベルリン) 、TC159/SC4/WG28 会議(ベルリン)ほか

2-5. 表彰委員会

{委員長：青木 和夫, 副委員長：申 紅仙}

- (1) 表彰選考等に関する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正かつ効率的な業務運営を行う。
- (2) 平成 28 年定時社員総会において、各賞 (功労賞, 日本人間工学会論文賞, 研究奨励賞, 人間工学グッドプラクティス賞, 優秀研究発表奨励賞) の受賞者に対する授与式を行う。
- (3) 平成 29 年度の各賞受賞候補を選考するとともに、表彰の準備を行う。
- (4) 表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに、受賞者や表彰事例の周知等、学会内外への情報提供に努める。
- (5) 本学会以外の国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する。

2-6. 安全人間工学委員会

{委員長：首藤 由紀、副委員長：鳥居塚 崇}

- (1) 四半期ごとに委員会を開催し、安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (2) 日本人間工学会第57回大会のシンポジウムを企画・実施する。
- (3) 日本学術会議安全工学シンポジウム2016の幹事学会を引き継ぎ、安全人間工学研究部会とともにシンポジウム全体の運営を行う。
- (4) 人間工学の視点から安全上の諸問題について社会に向けた発信を行う。そのためのウェブサイトを立て上げる。
- (5) 安全に関わる研究活動を行っている他の学協会との連携の幅を広げ、新しい交流・情報交換の機会をつくる。
- (6) 安全人間工学研究部会の運営をサポートする。

2-7. 学術担当

{担当：横山 清子、吉村 健志}

- (1) 日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、及び文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローする。
- (2) 「人間工学研究のための倫理指針」の改定について検討する。

2-8. 企画担当

{担当：岡田 明、阿久津正大}

- (1) 学会の公開講座等の企画を行う。特に、研究部会による公開講座の開催件数増加を目指す。
- (2) 全国大会において、学会本部主催企画講演「藤田 祐志 IEA 会長：人間工学の普及を担う国際人間工学連合」の企画を行う。
- (3) その他、学会主催の行事に関する企画と調整を行う。

2-9. 人間工学専門家認定機構

{機構長：福住 伸一、副機構長：横井 元治}

- (1) 資格認定試験を実施する。
資格認定試験（A方式試験）を年1回、筆記試験免除条項の適用（B方式試験）を年1回実施する。
準専門家・人間工学アシスタント試験を年4回程度実施する。
A方式試験：2016年9月4日（日） 芝浦工業大学芝浦キャンパス（東京）
- (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する。
総会 日時：2016年4月22日（金）17：45～18：45
会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス8階802
講演会 日時：2016年4月22日（金）15：00～17：30
会場：芝浦工業大学芝浦キャンパス8階802
講演1：佐相 邦英（一般財団法人電力中央研究所）
「電中研でのヒューマンファクター研究について」
講演2：赤津 裕子（沖電気工業株式会社）
「公共機器・オフィス機器におけるUXインタフェース研究」
※話題提供：「CPEの活動紹介」
幹事会（2回開催予定）
- (3) 機構長の改選を行う。
- (4) 再認定を促進するため、個別にご案内の連絡をし、ホームページにも再認定の手続きについて掲載する。

(5) シンポジウムを開催する。

日本人間工学会第 57 回大会（2016 年 6 月、三重県立看護大学）、日本人間工学会関東支部大会においてシンポジウムを行う。

(6) JES 学会誌へ GP 賞紹介記事を企画し、推進する。

(7) 機構ホームページ、会報、人材 DB（ERGO Directory）、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。

(8) 「人間工学グッドプラクティス賞」（GP 賞）の審査に積極的に協力する。

(9) IEA 専門家教育委員会の活動に協力する。

(10) 学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。

(11) CPE セミナー、CPE サロン（交流会）を開催する。

[臨時委員会・担当]

2-10. 学会改革・戦略委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:吉武 良治}

学会設立後 50 年が経過し、既存の学会運営モデルでは時代のニーズに即応することが困難となりつつある。多様化する社会ニーズと学術ニーズへ即応する基盤を整備し、学会活動の活性化をはかる組織運営のあり方について、中長期戦略ビジョンの検討を行う。

2-11. 人間工学研究のための倫理指針検討委員会 {委員長:石橋 基範、副委員長:大須賀 美恵子}

平成21年11月に人間工学研究において特に倫理面から研究実施者等が遵守することが望ましい事項を定めた「人間工学研究のための倫理指針」を策定・施行した。その後の研究の多様化、社会動向の変化を踏まえ、人間工学が社会の信頼を得、貢献するために弁えるべき研究上の倫理指針の改訂を検討する。（略称は倫理指針検討委員会）

2-12. 子どもの ICT 活用委員会

{委員長:斉藤 進、副委員長:久武 雄三}

わが国では、2010 年に閣議決定された新成長戦略に沿い、総務省「フューチャースクール推進事業」及び文部科学省「学びのイノベーション事業」等、児童や生徒一人一台の情報端末による教育展開を目指し、小中学校における ICT 機器の導入と活用が急速に進められてきている。日本人間工学会では、子どもの ICT 機器活用に関する人間工学を検討するため、子どもの ICT 活用委員会を設置し課題を整理してきた。

これまでの活動を通し、学校で子どもたちが安全で快適に ICT 機器を使う環境が整っているとは言い難い現状が浮かび上がってきている。また、文部科学省が昨年度末に公表した 2015 年度学校保健統計調査報告書等により、裸眼視力が 1.0 未満の小中学生が 3 割を超過と増加傾向にある等、子どもの視力低下が最悪の状況であることが明らかとなっている。学校教育に ICT 機器を導入したことが主因とは言えないが、ICT 機器を導入するにあたって子どもの視覚機能を保護することは我々の義務であろう。

日本人間工学会に設置された本委員会としても、子どもの ICT 機器活用ガイドラインとして取り上げる項目を整理し、成果を広く出前授業や他学会を通じた広報活動等により社会的に広める計画である。ガイドラインの対象とする ICT 機器は、ディスプレイやプロジェクターを含んだタブレット端末、電子黒板、及び実物投影機を主として取り上げ、これらの機器を使用する際の人間工学的留意事項等を分かりやすく解説することにより、人間工学の考え方を広く周知させる機会としたい。

2-13. IEA 担当

{担当：藤田 祐志、河合 隆史}

- (1) IEA 会長の諸業務にあたる（藤田祐志）。
- (2) IEA ウェブサイトの運用業務に従事する（主に河合隆史）。
- (3) その他必要なこと

2-14. 第 57 回大会担当

{担当：斎藤 真}

【開催日】2016年6月25日（土）、26日（日）

【大会会場】三重県立看護大学（津市夢が丘1-1-1）

【懇親会場】三重県立看護大学カフェテラスドリームヒル（津市夢が丘1-1-1）

- (1) 特別講演1件（大会企画）
- (2) 大会企画シンポジウム1件
- (3) 学会企画シンポジウム1件
- (4) 一般企画シンポジウム11件
- (5) 一般講演170件
- (6) 学・協会等から協賛（予定50団体）
- (7) 大会案内はホームページ（<https://www.ergonomics.jp/conference/2016/>）を活用して行う。

3. 支部活動

3-1. 北海道支部

{支部長：横山 真太郎}

(1) 会議

- 1) 支部役員会 平成28年7月中旬（予定）
 - ・平成27年度 支部事業報告
 - ・平成27年度 決算報告並びに監査報告
 - ・平成28年度 予算案
 - ・平成28年度 支部事業計画案
 - ・平成28年度 総会について
 - ・平成29年度 支部総会並びに大会について
 - ・その他

(2) 平成28年度支部総会並びに大会

大会長：平沢 尚毅（小樽商科大学）（予定）

日時：平成28年11月（予定）

場所：小樽商科大学（予定）

1) 支部総会議題

- ・平成27年度支部事業報告
- ・平成27年度決算報告並びに監査報告
- ・平成28年度予算案
- ・平成28年度支部事業計画案
- ・平成29年度北海道支部大会開催について

3-2. 東北支部

{支部長：大橋 智樹}

- (1) 支部役員会
 - ・年3回程度開催予定（支部研究会時に開催）
 - 他、必要に応じメール審議にて実施
- (2) 支部総会
 - 1) 日時：平成28年5月下旬開催（予定）
 - 2) 場所：未定
 - 3) 議事：平成27年度事業報告、平成27年度決算報告
平成28年度事業計画案、平成28年度事業予算案、など。
- (3) 支部研究会
年3回程度の開催を予定。支部内の複数地域での開催を通じ活動の活性化を目指す。
- (4) その他
研究者と実務家の意見交換、連携支援を積極的に進める計画である。

3-3. 関東支部

{支部長：三林 洋介}

- (1) 第46回関東支部大会・第22回卒業研究発表会
 - ・開催日：平成28年12月3日（土）～4日（日）
 - ・会場：高崎経済大学
 - ・大会長：久宗周二先生
 - ・特別講演、企画セッション、一般講演、卒業研究発表会など
- (2) 支部委員会 年2回開催予定
開催日：平成28年6月予定 会場：首都大学東京
平成28年12月3日（土） 会場：高崎経済大学
通信支部委員会を必要に応じて開催
- (3) 支部総会
開催日：平成28年12月3日（土） 会場：高崎経済大学
- (4) 見学会
開催日：平成29年3月に実施予定
- (5) その他
 - ・企業・研究機関交流、講演会などを開催予定
 - ・ニューズレターの発行
 - ・支部HPの整備を推進 など

3-4. 東海支部

{支部長：斎藤 真}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
 - ・開催日時：平成28年5月28日（土） 15:00-15:30
 - ・場所：名古屋市立大学芸術工学部（名古屋市千種区）
- (2) 講演会の開催
 - ・開催日時：平成28年5月28日（土） 15:45-16:45
 - ・場所：名古屋市立大学芸術工学部（名古屋市千種区）

- ・演題：「アパレルの着やすさと美しさを求めて」
- ・演者：富田明美（相山女学園大学 教授）
- (3) 支部役員会
 - ・年2回から3回開催予定
（必要に応じてメール審議を実施）
- (4) 日本人間工学会東海支部2016年研究大会の開催
 - ・開催日：平成28年10月15日(土)
 - ・開催場所：名古屋市立大学芸術工学部（名古屋市千種区）
 - ・大会長：横山清子（名古屋市立大学大学院 教授）
- (5) 日本人間工学会東海支部主催「実務者・初学者のための人間工学測定技法講座」
（年4～6回程度開催予定。開催が確定している講座は下記の通り。）
 - ・第4回「人間工学研究と研究倫理：新統合指針のポイントと人間工学研究への対応」
平成28年5月11日(水)
榎原 毅（名古屋市立大学大学院 講師）
 - ・第5回「心理量のはかり方：心理尺度のキホンのキ」
平成28年6月24日(金)
神田幸治（名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授）
 - ・第6回「温熱的指標とその測定：体温と熱放散の指標」
平成28年6月24日(金)
大西範和（三重県立看護大学 教授）
山根 基（愛知みずほ大学 講師）
 - ・第7回「人間工学研究で用いる統計解析 tips：投稿論文でよく誤用されること」
平成28年6月24日(金)
榎原 毅（名古屋市立大学大学院 講師）

3-5. 関西支部

{支部長:白井 伸之介}

- (1) 企画・行事等
 - 1) 見学会 平成28年10月頃（産学交流会含む）
 - 2) 支部大会
開催日：平成28年12月10日（土）予定
会 場：近畿大学 生物理工学部 人間工学科 和歌山キャンパス
大会長：廣川 敬康 先生
 - 3) 講演会等 平成29年3月頃（支部総会と併催）
- (2) 会議・総会等
 - 1) 第1回企画幹事会 平成28年6月頃
 - 2) 第1回評議員会役員会合同会議 平成28年12月頃
 - 3) 評議員選挙 平成28年12月～平成29年1月
 - 4) 選挙管理委員会、第2回企画幹事会 平成29年1月頃
 - 5) 第1回評議員会メール審議 平成29年2月頃
 - 6) 第2回評議員会役員会合同会議 平成29年3月頃（総会と併催）
 - 7) 支部総会 平成29年3月頃
 - 8) 優秀発表賞授賞式（支部総会時）

3-6. 中国・四国支部

{支部長:村田 厚生}

(1) 支部理事会開催

第1回:2016年12月10日(土),場所:香川大学工学部(予定)

第2回:2017年3月中旬~下旬,場所:未定

(2) 支部総会開催

2016年12月10日(土),場所:香川大学工学部(予定)

(3) 支部大会開催

第49回日本人間工学会中国・四国支部大会

2016年12月10日(土),大会長:鈴木桂輔先生(香川大学工学部)

場所:香川大学工学部(予定)

(4) 支部講演会開催

2016年12月10日(土),場所:香川大学工学部(予定)

(5) 支部表彰の実施

2017年3月

(6) 支部主催・共催の研究会の実施

随時

3-7. 九州・沖縄支部

{支部長:和田 親宗}

(1) 活動計画

1) 第37回支部代議員会

・開催日:平成28年10月17日(月)を予定

・会場:唐津ロイヤルホテル(佐賀)

2) 第37回支部総会

・開催日:平成28年10月17日(月)を予定

・会場:唐津ロイヤルホテル(佐賀)

3) 第37回支部大会

・開催日:平成28年10月16日(日)~17日(月)を予定

・会場:唐津ロイヤルホテル(佐賀)

・大会長:庄司卓郎(産業医科大学)

・共催:電子情報通信学会 福祉情報工学研究会

(2) その他

4. 研究部会活動

4-1. 医療安全研究部会

{部会長:土屋 文人}

<H24.4.1~5年以内>

(1) 活動テーマ

平成27年度に厚生労働科学特別研究「子供の医薬品誤飲防止のための包装容器評価に関する研究」が実施され、その研究結果が平成28年5月末にはまとめられることとなった。消費者安全調査委員会から子どもの医薬品誤飲防止対策については平成26年末に中間報告が、平成27年末には報告書が公表されている。本年度は厚労科研

の研究がまとめられたことから、これらについてシンポジウムを開催し、医薬品の包装に関する人間工学的な事故防止策について意見交換を行う場を提供する予定である。

一方、国の医療制度は 2025 年を目途として、従来の医療機関完結型から地域完結型へとその態様を変えようとしている。すなわち従来の医療機関を中心とした対応から在宅中心へと変化することとなることから、今後は在宅における医療安全をいかに図るのかの検討も必要になると思われる。このような状況の下、医療安全部会としては、従来の医療機関における対応に加え、今年度より少しずつ在宅医療までを視野に入れて活動を行うこととする。

(2) 手段・方法

1) 医薬品関係

こどもの医薬品誤飲防止策を検討するための医薬品の包装に関するシンポジウムを開催する。

2) 医療機器関係

医療機器の添付文書等の情報提供資材は医薬品の形式にならって作成されているが、医薬品同様、医療関係者にとって使い勝手が良いとはいえないのが実情である。医療機器の添付文書等に関して、使用する人間中心設計とするための検討を行う。

3) 研究成果をまとめた CD 等の作成

医療分野で実施された人間工学的研究をまとめた形で CD を作成する予定である。

(3) 期待される成果

医薬品企業における人間工学の認知度は二極化の傾向にある。前述のように、医療用医薬品全てに対してバーコード表示が義務づけられたことから、製薬企業は従来の工程の見直しが求められていることから、後発医薬品メーカーを含めた形で、人間工学的視点の重要性の啓発活動を行うことにより、医薬品の「使用の安全」向上が期待される。

また、在宅医療で使用される医療機器を含めた形での医療安全の検討を始めることにより、基礎データを確保することが可能となり、将来の利活用が期待できる。

4-2. 衣服人間工学部会

{部会長：猪又 美栄子}

<H24. 4. 1～5 年以内>

(1) 活動テーマ

平成 24 年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマに活動を開始した。地球規模での温暖化、資源の枯渇などの環境問題、節電対策が問題視されている。平成 28 年度も、これらに鑑み、衣服の分野から着装のあり方、衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方などについて環境問題を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。

(2) 活動計画

・研究例会の開催 年 2 回程度開催予定 ・工場見学開催 9 月初旬を予定

(3) 期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学の現状を捉え、最新の研究などの情報収集や勉強会を行い、情報発信することで、アパレル産業の衣服設計生産に於いて、環境問題を視野に入れた衣服人間工学が活用され普及することが期待される。

4-3. 触覚インタラクション研究部会

{部会長：小谷 賢太郎}

<H24. 4. 1～5 年以内>

(1) 活動テーマ

触覚インタラクションに関する国内外の研究者のコラボレーションを促進する。また、触覚技術を積極的に展開できるよう研究を推進し、具体的なプロジェクトを立ち上げやすいよう、環境を整備する。

(2)活動計画

- 1)2016年6月24日に運営委員会を開き、共同研究推進のための意見交換、ならびに研究部会の総まとめとしてオーガナイズ度セッションの企画準備をおこなう。
- 2)HCI International 2016においてオーガナイズドセッションを行い、海外の研究者との研究交流を目指す。現在発表を予定しているタイトルは以下の通りである。
 - ・Study of Physiological Characteristics Accompanied by Tactile Thermal Perception – Relationship between changes in thermal gradients and skin conductance responses
 - ・Why is tactile information not accurately perceived? Accuracy and transfer characteristics of visualized schematic images induced by perceived tactile stimuli
 - ・Relationship between operability in touch actions and smartphone size based on muscular load
 - ・Designing Effective Vibration Patterns for Tactile Interfaces
- 3)2017年3月に研究会を開き、関連の研究者による特別講演を開催する。
- 4)関東支部大会に合わせてオーガナイズドセッションを開催する。特にシンポジウムテーマを「触覚技術と触覚応用との橋渡し」とし、要素技術と応用展開の2面から触覚インタラクションを掘り下げることとする。

4-4. 航空人間工学部会

{部会長：竹内 由則}

〈H25.4.1～5年以内〉

(1)研究目的

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は「安全運航への新たなアプローチ」をテーマとし、航空事故事例から得た人間特性及びマンマシンインタフェースに関わる問題、次世代の航空機等における事故防止技術の動向を分析検討する。

(2)方法・手段

1)研究例会（公開講座）の開催

日時：2016年6月24日（金） 10：00-17：00

場所：国立オリンピック青少年記念総合センター センター棟 417号室

【予定講演】として

- 1) 脳波を用いたパイロットのワークロード評価について（航空自衛隊 航空医学実験隊）
- 2) アップセット プリベンション アンド リカバリー トレーニング に関わる国際動向について（ATEC Working Group）
- 3) A350に導入されている新技術と特徴について（Airbus / JAL）
- 4) D-NET（災害救援航空機情報共有ネットワーク）を活用した、新しい集中管理型消防防災ヘリコプター動態管理システムについて（JAXA）

2)施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3)部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みにも活用する。本年度は、より質の高い内容を掲載し充実を図る。

4)委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

(3)期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学の多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。
また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

4-5. アーゴデザイン部会

{部会長：高橋 克実}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1)活動テーマ

「三方よしのビジョン提案型デザイン手法の実践」～ユニバーサルデザイン4.0～

平成28年度は三方よしのビジョン提案型デザイン手法の確立に向けた実践的な手法で事例を通じた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践する。また、日本人間工学会編として出版した「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」をスタートとした研究も、今回のテーマである「三方よしのビジョン提案型デザイン手法」ではユニバーサルデザイン研究の第4ステップとなるため、もう一度ユニバーサルデザインの原点に立ち返り、これを視野に入れたユニバーサルデザイン4.0の研究をすることとした。

(2)手段・方法

1)EVIS-WG(ワーキンググループ)の活動強化

前期までのSCD-WGは、今年度からこの言葉を使わないこととなり、EXPERIENCE VISION + Socialityを踏まえて、EVIS_WGとして活動を再スタートする。部会活動のテーマである「三方よしのビジョン提案型デザイン手法」の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、実践によるプロセスを実施可能な形で明確にする。UD-WGの「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」の改訂は取りやめ、今回のテーマをユニバーサルデザイン4.0と捉えて、一体化した研究活動と方法論発表の機会を創り出す。

2)ビジョン提案型デザイン手法の啓蒙・普及活動の実施

「ビジョン提案型デザイン手法」については、これまで以上にEXPERIENCE VISION普及のためのイベントと兼ね合わせたセミナーやフォーラムを開催して、「三方よしのビジョン提案型デザイン手法」との連携を図る。

3)学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

(3)期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となる三方よしのビジョン提案型デザイン方法論(手法やプロセス)を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「新しいEXPERIENCE VISION」の啓蒙・普及により、社会、環境、産業に貢献できる。

(4)活動予定

- 4月 幹事会(幹事の役割、担当行事の検討)
- 6月 日本人間工学会第57回全国大会 企画セッション(三重県立看護大学)
- 7月 大学間交流イベント開催、幹事会、EVIS-WGセッション
- 8月 EVIS-WGセッション
- 9月 コンセプト事例発表会、幹事会
- 10月 見学会、幹事会、EVIS-WGセッション
- 11月 EVISフォーラム開催
- 12月 HCD研究発表会(HCD-Net主催)にてEVIS_WG発表、幹事会
- 2月 EVIS-WGセッション

4-6. 感性情報処理・官能評価部会

{部会長：梶谷 哲也}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から工学的応用までを多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびデザイナーの育成をはかる。

(2) 手段・方法

感性情報処理と官能評価の基盤である人間の感覚・知覚・感情・認知等の諸特性およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する講演会、さらに若手研究者を主体とした研究会また関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを企画、実施する。それらを通して研究者やデザイナーどうしの情報交換や交流を図るとともに若手研究者・デザイナーの研究意欲を喚起し有益で具体的なアウトプットの創出を支援する。

(3) 期待される成果

感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ新たな情報や手法などに刺激されたり学んだりする機会を広範に提供することにより、とくに若手研究者の裾野の拡大や諸研究のいっそうの活性化が期待できる。

また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難を共有して議論し相互に支援する機会を通じて人間工学のいっそうの発展に資することが期待できる。

さらに、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化にもつながるものと考えられる。その過程で、これまで職人の職能として伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化することで、モノづくりのノウハウを現職の職人・デザイナーに提案することで、これまでのモノづくりに感性価値を付加することを可能とする。

4-7. 看護人間工学部会

{部会長：佐伯 由香}

〈H25. 4. 1～5年以内〉

(1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器械・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な職場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を打ち出すとともに、看護実践・教育現場にフィードバックする。

(2) 手段・方法

1) 第24回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成28年11月5日(土)に愛知県立大学 箕浦哲嗣教授が主催し、第24回看護人間工学部会総会・研究発表会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。

2) 日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

3) 日本人間工学会第58回大会に参加するよう呼びかける。

4) 看護人間工学研究誌第17巻を発行(平成29年3月)し、部会員に送付する。

5) 看護人間工学部会のホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

(3) 期待される成果

1) 第24回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

2) 日本人間工学会第58回大会への発表、参加人数を増やす。

- 3) 看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。
- 4) 部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

4-8. 海事人間工学研究部会

{部会長：吉村 健志}

〈H25. 4. 1～5 年以内〉

(1) テーマ

海事分野における人間工学研究の応用と課題

(2) 手段・方法

1) 企画セッションの提案 1

平成 28 年 6 月 26 日、日本人間工学会第 57 回大会にて一般企画シンポジウムを下記の通り、企画、開催する。

テーマ：三重における海事分野の人の匠

目的：海事に関わる人の活動場所として、太古より栄える伊勢をおひぎ元にもつ三重で大会が開催されることを機に、三重における海事に関する人（ヒト）の匠について紹介し、その中で特に国際的にも代表される海女について取り上げる。そして、人（ヒト）の有形、無形の匠について人間工学的な討論を行い、海事人間工学の発展につなげる。

オーガナイザー：村井康二、司会：吉村健志

講演：

1. 三重における海事に関する人の匠 竹内千尋（志摩市議会議員／前志摩市長）
2. 海女と匠 山下真千代

2) 企画セッションの提案 2

平成 28 年 6 月 19 日、第 52 回日本交通科学学会総会・学術講演会にて一般企画シンポジウムを下記の通り、企画、開催する。

テーマ：航行安全の課題と将来

目的：法学、海事システム工学、情報通信などの側面から航海の安全を実現するための取り組みを紹介するとともに、自律航行船の実現に向けた課題を明らかにする。

オーガナイザー、司会：吉村健志

講演：

1. 航行安全を支える情報通信技術 丹羽康之（海上技術安全研究所）
2. 航行安全を支える航法 田丸人意（東京海洋大学）
3. 航行安全を支える法学 逸見真（東京海洋大学）

3) 研究会・見学会の開催

東京湾において訪船見学会を実施する。また、日本人間工学会関東支部第 45 回大会において研究会を開催する。

4) 幹事会の開催

研究部会の円滑な運営を図るため、2 回以上の幹事会を開催する。

5) 協賛

・ The 2016 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC 2016) SS on Human-Centered Transportation Systems

※Session 企画

(3) 期待される効果

引き続き、研究会及び見学会の開催、国際会議との Joint セッション企画等をおこない、最新の海事関連研究に関する情報を発信するとともに、海事分野における人間工学研究の応用事例を把握し、今後の課題を明らかにする。

4-9. ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:新家 敦}

〈H26. 2. 25～5年以内〉

- (1)平成 28 年度研究部会テーマ
新世代の量的研究を目指して。
- (2)活動内容(手段・方法)
 - 1)部会運営の為、幹事会を組織する。また、本年度 3 回の幹事会を開催する。
 - 2)部会内で定期的に研究会を開催する。
今年度は全 3 回の開催を目標とする。
 - 3)部会研究会の成果や部会、もしくは部会員のビッグデータ利活用事例について、全国大会および支部大会などで紹介し、討論を行う。
 - 4)部会の活動成果を学会誌に投稿する。また、部会の活動内容・経過を SNS などを通じて広く社会に公開・発信する。
- (3)期待される成果
 - 1)これまでの質的研究・量的研究という区分が、ビッグデータおよび IoT の登場により変化しつつあると感じている。ビッグデータ・IoT 時代にふさわしい研究手法を提案できないかと考える。
 - 2)ビッグデータを応用した新しい人間工学的研究手法の事例について部会活動を通じて議論し、蓄積・発信していくことで、人間工学研究の活性化に資することが期待される。

4-10. 安全人間工学研究部会

{部会長:鳥居塚 崇}

〈H27. 4. 1～5 年以内〉

- (1)活動目的
安全人間工学研究部会は、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。
- (2)活動内容
 - 1)研究会を 3 回程度東京で開催する。
 - 2)首都圏以外の地域でも 2 回程度研究会を開催する。
 - 3)必要に応じて、外国からの講師を招く予定である。
 - 4)部会員以外にも JES ウェブサイト等を通じて開催を告知する。
 - 5)幹事は鳥居塚(日大)・中西(慶應義塾大)・吉村(海技研)。安全人間工学委員会の委員も部会運営に協力する。

4-11. PIE 研究部会

{部会長:三宅 晋司}

〈H27. 4. 1～5年以内〉

- (1)活動目的
初年度に引き続き、従来の生理心理計測手法とこれを人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい生理計測手法や装置に関する情報交換と役に立つ PIE に向けて共通認識をもち、解決すべき課題を明らかにする。さらに、企業と連携して人間工学分野における生理心理計測応用のグッドプラクティス事例の収集を行う。また、倫理的な側面についても議論を進め、必要に応じ啓発活動を行う。
- (2)平成 28 年度の活動内容(手段・方法)
 1. 6 月の第 57 回大会にて「生理指標でなにがわかるか」のテーマによるシンポジウムを開催し、2 件の問題提起のあとパネルディスカッションを行う。

2. 部会編による生理計測に関する資料集（書籍）を7月頃に発刊する。
3. アメリカ生理心理学会（Society for Psychophysiological Research: SPR2016, 9月21日～25日 アメリカ ミネアポリス）にてPIEシンポジウムを開催し、議論する。
4. 10-12月頃にいずれかの支部大会でPIEセッションを企画する。
5. その他、ワークショップや講習会など、公開企画も含めて検討する。
6. 並行して、部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

(3)期待される成果

PIE分野の現状認識、課題の抽出が行え、役に立つPIEに向けての議論が活性化される。部会外への情報発信によりPIEの裾野を広げる。

4-12. システム大会部会

{部会長：衛藤 憲人}

(1)本会の目的

ヒトをシステム論的立場から研究・議論することを目的に立ち上がった本部会も今年で24年目を迎えた。毎年3月には卒業研究生・修士研究生を中心に研究成果を報告する発表会を実施し、研究者として第一歩を踏み出す若手研究者にとって、日本人間工学会全国大会（毎年6月開催）・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となってきた。さらに近年、日本全国からシニア研究者の発表も増え、医学から工学にわたる幅広い分野の専門家、学際領域の研究者、様々な大学の教員、学生が集い議論できる同発表会は学生たちに非常に好評である。

(2)活動の内容

第24回システム大会（平成27年度大会、東海大学主催）を早稲田大学理工キャンパス（東京都新宿区）にて開催した。来年度も同様の大会開催を計画しているが、近年のシステム大会の全国的な認知度向上を利用し、学生、若手研究者にも人間工学への興味をもってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。そのために、年数回の幹事会（教員、研究者を中心に構成）と3月の第25回日本人間工学会システム大会を計画している。

一般社団法人日本人間工学会 2016 年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当（長期的及び継続的に実施する事業）		
総務担当	中西美和、大橋智樹	学会運営の執行管理、事務局機能の強化の検討
財務担当	三宅晋司、大内啓子	財務管理と学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	松田文子、山田クリス孝介	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、人間工学の社会発信
編集委員会	赤松幹之、榎原 毅	学会誌の編集と発行、電子投稿・査読システムの運用
国際協力委員会	小谷賢太郎、鳥居塚崇	国際人間工学連合・アジア人間工学デザイン会議等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	横井孝志、佐藤 洋	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	青木和夫、申 紅仙	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、国際表彰の推進
安全人間工学委員会	首藤由紀、鳥居塚崇	安全に関わる学会活動の提言等、安全工学シンポジウム運営への参加
学術担当	横山清子、吉村健志	日本学術会議との連携、横幹連合への役員派遣、科研費の細目要望
企画担当	岡田 明、阿久津正大	公開講座の企画、大会における学会企画シンポジウムの企画等
人間工学専門家認定機構	福住伸一、横井元治	認定・再認定実施、講演会・セミナー等の開催、GPDB への協力
臨時委員会・担当（目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業）		
学会改革・戦略委員会	榎原 毅、吉武良治	学会活動の活性化をはかる組織運営のあり方について検討
倫理指針検討委員会	石橋基範、大須賀美恵子	人間工学研究のための倫理指針の改訂を検討する
子どもの ICT 活用委員会	斎藤 進、久武雄三	学校等の ICT 機器の使用に関する人間工学課題の検討と情報の共有、ガイドライン作成準備
IEA 担当	藤田祐志、河合隆史	IEA ウェブサイトの運営にかかわる支援
第 57 回大会担当	斎藤 真	2016 年 6 月 25～26 日に大会開催
ACED2017・第 58 回大会担当	小谷賢太郎、鳥居塚崇	2017 年 6 月 1～4 日に大会開催